

Title	ロシア人宗教集団ドゥホボールに関する文献(外国篇)
Author	左近, 毅
Citation	人文研究. 40 卷 12 号, p.871-969.
Issue Date	1988
ISSN	0491-3329
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学文学部
Description	

Placed on: Osaka City University Repository

ロシア人宗教集団ドゥホボールに 関する文献 (外国篇)

左 近 毅

1. はじめに

本稿は、¹⁾前号に続く当該文献の外国篇である。しかし、紙幅の関係で研究史および文献の一部を他稿に譲らねばならないことを予めお断りしておきたい。また、ドゥホボールに関し改めて概説しないので、前号を参照されたい。ドゥホボールについては、大量の文献が存在する。主たる所在地はヨーロッパと北米大陸で、なかんづくカナダ、アメリカ合衆国、ソ連に集中している。文献に使用されている言語は、主として英語とロシア語である。また、関連文献が対象とする時期と場所に応じて、文献の所在が異なってくるのも特徴である。世界で最大のドゥホボール文献を所蔵、収集しているのは、前稿で指摘したように、ヴァンクーヴァーの The University of British Columbia である。その特別コレクション室には未公開のアルヒーフがある。多数のドゥホボールが居住するブリティッシュ・コロンビアに中央公文書館、またオタワのカナダ公文書館は、ドゥホボール移民当時の政府文書を所蔵している。ドゥホボール居住地域に立地する Selkirk College 付属図書館は、地域発展史に関わる資料を集めている。University of Toronto には、Fisher Rare Book Library 内に、有名な Mavor コレクションが存在する。同じくドゥホボールが一部居住しているサスカチュワン州では、University of Saskatchewan に初期移民のアルヒーフがある。さらに、移民資料は、ロンドンの公立記録文書館にも一部存在する。ロンドンではドゥホボールのカナダへの移住を援助した、チェルトゥコーフの Free Age Press やクェーカーの The Society of Friends が活躍した場所であり、かつクロボトキンもここに居を定めてドゥホボール問題に携わっていた。フレンド協会の図書室はその時の資料を備えている。同じくドゥホボールを支援したピリュコーフの資料は、ソ連のトルストイ記念館が所有している。移住以前のドゥホボ

ール歴史資料は当然ソ連国内に存在しているものの、概して十分に利用されていない。モスクワのレーニン図書館は膨大なドゥホボール・コレクションを擁し、モスクワ大学も関連資料を持っている。ただし、ペレストロイカのソ連で、若手の研究者がこれらを使い始めようとしている。²⁾

以上、関連資料の主要所蔵機関に触れた。次に、資料の性格に言及しておきたい。資料は大きく報道的内容のものと研究的内容のものに二別されるが、ここでは、新聞・雑誌などによる前者の資料を除外した。ただし、学術雑誌に掲載された研究論文は、もちろん別である。また、必ずしも研究的内容を持たぬものでも、旅行記、見聞録など価値あると判断したものは収録した。資料の性格と内容に関わるものとして、資料の形式について述べる。ここに収録したものは、公刊されたモノグラフィー、学位請求論文、学術雑誌論文である。新聞、一般雑誌、政府刊行物、アルヒーフ、写真帖、映画・テープなどの視聴覚資料は原則として除外した。政府刊行物とアルヒーフについては、改めて別稿で取りあげたい。また採録した資料のうち、重要と判断されるものについては、特にコメントを附した。以上、資料の取捨選択の基準と範囲を提示した。つぎに、資料執筆者の立場と観点について、可能な分類を施しておこう。執筆者群は、大きくインナー・グループとアウター・グループとに分かれ、前者はさらに Union of Spiritual Communities of Christ, Sons of Freedom および Independent Doukhobors に分類され、相互間に大きな差異と開きを示している。またカナダへ出国する以前の段階におけるドゥホボール内部関係者の書き残した資料は、書簡類を除くと比較的少ない。アウター・グループによる資料が示すアプローチと分野は、まことに多岐にわたっている。アカデミックな研究者、宗教者、政策者、文化人類学者、平和運動家が主たるもので、取り扱われている対象・範囲の例としては、宗教、思想、政治、社会、文化、フォークロアと幅広く、資料の執筆時期によって、関心と範囲の内容が明確に遷移している。ロシア出国以前の時期における扱いは、探訪、宗教的独自性への注目、それによって生じた教会および国家権力とのあつれきに集中していたのに対し、カナダ移民後の資料は、1910年代の初期段階では、カナダ政府との政治的対立、アングロ系住民との経済的対立が、そして社会的適応と同化の問題がクローズ・アップされている。また2つの大戦時にはカナダ政府の戦争政策との摩擦がテーマとなり、さらに同化と伝統の問題をめぐる集団内部の内紛と分裂がしだいに顕在化し、いまに至るも最大の課題として最も関心が集中し、とりわけ第二

次世界大戦後はその関連から、社会学的・社会心理学的なテーマが目立つ。と同時に、1960年代以降は独自の文化と伝統に対するフォークロアの視点が登場し、音楽、習俗、言語、服装、食生活などの領域で、ドゥホポールが取りあげられるようになる。また、国際平和運動のコンテキストでドゥホポールが言及され始めるのは、ほぼ1970年代にはいつてからである。そして内部グループの最少数派 Sons of Freedom がにわか凸出して耳目を集めるに至るのは、1950年に彼等によるあい次ぐ放火が一大刑事事件に発展したことを契機にしている。

文献資料の量について言えば、ドゥホポール集団にかかわる大きな歴史事件発生後に集中して増えているのは当然であろう。第一期のピークは1895—1899年の武器焼却によるロシア政府との対立激化からカナダへの出国に至る時期であり、トルストイらのグループによる資料は殆どこの時期に集中している。第二期はカナダ移住直後数年間における、カナダ側資料の増加である。しかしそれら文献のトーンは、歓迎から困惑へと微妙に変化してゆく。第三期の1930年代前半は、Sons of Freedom の裸体行進が続発したために資料が増加した。第四期も同グループのセンセーショナルな行動で1950年に幕が開けられ、以後の10年程新聞・雑誌と官庁資料を筆頭に、文献の著るしい増加が目立っている。現在新らしい文献増加のピークが、主として、U. S. C.³⁾のおかげで、出現する気配を見せ始めている。これは、同組織による宣伝活動の強化と自己史保存のキャンペーン、さらには国際平和運動への積極的参加という政策転換によって生まれつつある動きである。

さて、最後に文献史に触れておこう。ドゥホポール研究の本格的な文献目録作成に初めて着手したのは、イギリスの Peggy Sherriff であり、ロンドン大学の司書資格取得審査を機会に完成した。1959年5月に提出されたその A select bibliography は、採録点数191点で、新聞記事や官公庁資料は除外しているものの、ロシア語文献も重要なものを含み、カナダ、イギリス、アメリカ合衆国の主要図書館をみずから調査する労をとっている。特徴は、文献の刊行年順に整序されている点にある。しかし、先駆的作業としての評価は変わらないにしろ、既に古くなり過ぎて十分な利用に最早耐えない。刊行当時から30年、関係文献は飛躍的に増大している。さらに、タイプ印刷の形式を取っているのはやむを得ないにしても、タイプ打ちのミスが極めて多い。この種作業に最も要求される正確さがそれ故に低下して、信頼度を落としている。また、作成者がロシア語に十分通じていない事も厳密を欠く原因

となっている。さて、恐らくこの作業に刺激されて、ドゥホポールに関する最大のコレクションを擁するカナダのブリティッシュ・コロンビア大学は、1968年司書の Maria Horvath に託して、同大学所蔵文献を対象に、A Doukhorbor bibliography を作成した。収録点数は、単行本と定期刊行物のみで663点に達し、前者の規模を遙かに越えた。Horvath は、この他ドゥホポールに関する政府刊行物の目録、アルヒーフの目録も併せて完成させた。1968年に作成されたこのビブリオは評価が高く、十分な利用に応ずる為1972年には、更に増補改定された。ここで、収録点数は増補改定版による。だが、この目録もタイプ印刷である為、固有の欠陥を免れていない。ミス・タイプによると判断される誤りが随所にある。また、キリール文字をローマナイズするのに統一性が無く、ルールを欠いている。L.C.基準を準用していないのである。ともあれ、労多くして困難な作業を克服し、これら2つの文献目録を完成した両女史の貢献は、無視できない。本目録を準備するにあたっては、これらの目録作成以後に刊行された文献にも可能な限り目を配った。この種の作業には、時間との宿命的な戦いが付き物である。本目録も完成の直後から、out of date となる運命にある。また、前二者との相違点を指摘しておく。本目録では、ロシア語による文献をもとのままキリール文字で表記し、これらを別に掲げたこと。Horvath のばあい、所蔵目録の性格を併せ持つため有りとあらゆる関係文献が雑多に含まれているのに対し、取捨選択にあたって学術研究に資し得るか否かを第一の基準としたこと。文献へのコメントを通し、ドゥホポールの全体像（歴史と現在）が見えてくるように配慮したこと。つまり単に索引・検索に供するのみならず、ドゥホポールを理解するための「読む目録」の要素を加えたことである。本目録作成が可能となったのは、カナダでの現地調査で協力してくれた以下の各氏のおかげである。U.B.C. の Jack McIntosh, Selkirk College の Mark Mealing 博士、司書の John Mansbridge, U.S.C.C. の Jim Popoff 事務局長。記して感謝の意を表したい。

注

- 1) 『人文研究』、大阪市立大学文学部、第38巻第8分冊1986年、「ロシア人宗教集団ドゥホポールに関する研究史と文献（本邦篇）」。
- 2) Л. Немира, “Отчего стала плакун-трава?”, в “Наука и религия”, 1988 No. 2. なお、ネミラ嬢に対するインタビュー記事は, “Искра”, No. 1672, окт., 1988.
- 3) U.S.C.C. は Union of Spiritual Communities of Christ の略称。

『ドゥホボール研究文献目録』

A

1. Андерсон В. Старообрядчество и сектантство. Исторический очерк русского религиозного разномыслия. СПб. Изд. В. И. Губинского. 1912. 460 с.

ドゥホボールについては、371—399ページに記載が集中している。ロシアのドゥホボールのみについて論じたものである。

2. Астирев Н. В гостях у духоборцев иркутской губернии. “Северный вестник”. СПб. 1891. т. 4, с. 52-65.

1887年にヴェリーギンはシベリア流刑に処せられ、以来東シベリアには少数ながらドゥホボール流刑集団が形成され、付近住民に対し影響を与えた。これは、イルクーツク地区ドゥホボールへの訪問記である。

3. Белов А. В. Духоборы. В “Секты, сектантство, сектанты. Что такое сектантство?” М. Наука. 1978. с. 67-70.

主としてクリバーノフの解釈と評価に従い乍ら、ドゥホボールを分離派の中で最も重要な流れと評している。

4. Бильбасов В. А. О молоканах и духоборцах. “Русская старина”. СПб. 1896. т. 86, с. 315-317.

1818年のアレクサンドル一世とドゥホボールたちとの会見を紹介したものの。

5. Бирюков П. И. Помогите! Обращение к обществу по поводу гонения на кавказских духоборов. Составленное П. Бирюковым, И. Трегубовым и В. Чертковым. С послесловием Л. Н. Толстого. Лондон. Б. Чертков. 1897. 23 с.

ビリュコーフはドゥホボールの窮状を調査し、公刊したために国外流刑に処せられた。晩年の1927年にカナダ・ドゥホボールを訪問し、学校

の設立と新聞の刊行に尽力した。ドゥホボール研究に欠かせない多数の文献を残している。これはトルストイのあとがきを付し、広く流布してドゥホボール迫害の実態を周知させた記念的な小冊子である。

6. Бирюков П. И. Положение духоборов на Кавказе в 1896 году и необходимые средства облегчения их участи. Лондон. Б. Чертков. 1897. 22 с.

『援助の手を！』と並んで、大量に流布した小冊子。

7. Бирюков П. И. Краткий очерк положения духоборцев за истекший 1897 год и до настоящего времени. “Свободное слово”. Пурлей, Эссекс. 1898. No. 1, с. 177-218.

8. Бирюков П. И. Письмо духобора из Канады. “Свободное слово”. Ганц, Англия. 1902. No. 2, с. 26-27.

9. Бирюков П. И. Духоборец Петр Васильевич Веригин. Мое свидание с ним и отчет о лондонском митинге. Женева. Изд. Международной лиги антимилитаристов. 1903. 16 с.

1902年の末、保釈されたヴェリーギンはカナダへ渡る途次ロンドンに立ち寄った。これは、その時の模様を記したものである。

10. Бирюков П. И. Малеванцы. “Свободное слово”. Ганц, Англия. 1904. No. 12, с. 8-14 и No. 13, с. 9-14.

異端派の一つマレヴァーネツを論じたもので、翌年『言論の自由』叢書95としても刊行されている。

11. Бирюков П. И. Духоборцы. Сборник статей, воспоминаний, писем и других документов. С приложением рисунков и избранных духоборческих псалмов. М. И. Н. Кушнерев. 1908. 236 с.

12. Богораз-Тан В. Г. Духоборы в Канаде. Очерки. Изд. исправ. и допол. М. Народная мысль. 1906. 97 с.

13. Бонч-Бруевич В. Д. Список псалмов, писем, рассказов и других рукописей по исследованию учения, жизни и переселения в Канаду закавказских духоборцев. Женева. Украинская типография. 1900. 81 с.

ボンチ=ブルーエヴィチの名は、レーニンの盟友であったということで、最もよく知られ、『プラウダ』、『イズベスチヤ』、『コムニスト』などの編集に早くから関わり、革命後のソビエト政権では数々の要職を歴任した。しかし、他方では宗教史の地道な研究家でもあり、ドゥホボールに関するエスノグラファーとしては、開拓者と呼ばれるに応わしい。偽名はウラジーミル・オルホフスキー。

これは、付録を含め、ドゥホボールに関する情報を満載しており、著者が流刑中に国外で収集した史料や手稿をはじめて公けにしている。

14. Бонч-Бруевич В. Д. (сост.) Рассказ духоборца Васи Позднякова. С приложением документов по изнасилованию женщин казаками. Ганц, Англия. В. Чертков. 1901. 29 с.

ドゥホボール教徒の一人、ポズニャコーフのインタビューと手記をまとめたもの。付録で、コサックによるドゥホボールへの暴虐ぶりを描いている。チェルトゥコーフの協力で公刊された。

15. Бонч-Бруевич В. Д. Баптисты, бегуны и духоборцы. СПб. 1908. 185 с.

ロシア宗教史、分離派研究シリーズのトップに刊行されたもの。アンドローソフ、ポターポフ、ビリュコーフの資料も含み、併せてドゥホボールたちの出国資金に関する統計資料を載せている。

16. Бонч-Бруевич В. Д. Животная книга духоборцев. Материалы к истории и изучению русского сектантства и раскола, вып. 2. СПб. 1909. 327 с.

ボンチ=ブルーエヴィチの代表的な著作。第2版は、1954年にカナダのウィニペグから出ている。また、サスカチュワンで刊行された英訳版は、広くドゥホボールに愛読されている。タイトルは、ドゥホボールの口伝による自己史の性格をよく伝えている。

The Book of Life of Doukhobors. Translated version. 1978. 320p.

17. Бонч-Бруевич В. Д. Сектантство в освободительной эпохе. В кн. : Великая реформа. Под ред. А. К. Живелегова. М. Ситин. 1911. т. 5, с. 253-268.

ヴェレシチャーギンの筆によるドゥホールのスケッチを再録したものの。

18. Бонч-Бруевич В. Д. Духоборцы в канадских прериях. Петроград. Кадима. 1918. 276 с.

ドゥホールの移民と入植の模様を詳細に伝えたもので、カナダ北西部のコミューンが克明に紹介されている。

19. Бонч-Бруевич В. Д. Из мира сектантов. Сборник статей. М. Государственное изд. 1922. 330 с.

ロシア・ドゥホールに関する記述が中心。本来は、ジュネーヴで1904年に刊行された資料がベースとなっている。

20. Буганов В. И. Проблемы реформационных движений и общественно-политической мысли России в трудах А. И. Клибанова. "Исторические записки". М. 1977. No. 98. с. 257-275.

21. В. Б. Экономическое положение духоборцев в Канаде. "Свободное слово". Ганц, Англия. 1901. No. 1, с. 24-25.

22. Верещагин В. В. Духоборцы и молокане в Закавказьи. Шинты в Карабахе. Ватчи и опиумеды в Средней Азии. Овер-Амергау в горах Баварии. Рассказы с рисунками. М. И. Н. Кушнерев. 1900. 90 с.

旅行をこの上なく愛した旅の画家ヴェレシチャーギンは、カフカースを訪れたおりにドゥホールを知り、絵画による貴重なルポルタージュを残した。その子ガブリエルはカナダのドゥホールに投じて、指導的

な役割を果たした。惜しくも日露戦争に際し、旅順港にて没した。

23. Веригин Г. Не в силе бог, а в правде. Париж. Дрефюс и Шарпентьер. 1935. 290 с.

著者は、P.V.ヴェリーギンの弟。イエスの生誕から筆を起こし、19世紀末から20世紀初頭にかけて、ちょうどドゥホボールが世界から注目を集めた時期の Christian Community of Universal Brotherhood (多数派, コミュニティー派, オプシチンニキ派などと呼ばれる) の生活ぶりと政府の対応策を論じたもの。ビリュコーフの序文を附している。

24. Веригин П. В. Письма духоборческого руководителя Петра Васильевича Веригина. Под ред. Бонч-Бруевича. С предисловием В. и А. Чертковых. Ганц. А. Чертков. 1901. 239 с.

1899年までのドゥホボールに関する事情を知るうえで重要な史料である。1985年には、キャッスルガー (カナダ・ドゥホボール主要居住地区の一つ) でリプリント版が刊行されている。

25. Виноградов П. И. Духоборец. Изд. второе. СПб. И. Л. Тузов. 1898. 93 с.

モスクワ宗務院検閲委員会をパスした、いわば官許のドゥホボール訪問記である。ドゥホボール問題がロシアの内外に大きく取り沙汰されるに及び、正教会当局も黙殺し得なくなった事情を反映している。

26. Водянский А. М. Духоборцы. Сборник рассказов, писем, документов и статей по религиозным вопросам. Харьков. Печатник. 1907. 202 с.

著者はアナーキストで1900年カナダに渡り、ドゥホボールの生活をつぶさに目撃、カナダ政府による規制と圧迫の実態を世界に訴えた。他に、2巻もののテキストも存在する。

なお、その反政府的な言動でドゥホボールを扇動したとして、1901年強制退去を命ぜられた。Sons of Freedom の極端な反文明主義に影響を与えた一人とも言われる。

27. Высоцкий Н. Г. Материалы из истории духоборческой секты.

М. И. И. Иванов. 1914. 56 с.

28. Г. П. А. Приезд П. В. Веригина к канадским духоборцам. Женева. Международная группа антимилитаристов. 1903. 19 с.

カナダ紙が報じたヴェリーギン到着の詳細を翻訳、転載したもの。

29. Гремив С. Посланник божий продает духоборцев чекистам. "Юмор, сатира и прочее". Нью-Йорк. Бруклин. 1961. No. 1, с. 21-24.

30. Гусев Н. Н. Лев Толстой против государства и церкви. Не напечатанные в России места из записок бывшего секретаря Л. Н. Толстого. Издание "Свободного слова" В. и А. Чертковых. 96 с. Berlin. J. Ladyschnikow Verlag G.m.b.H.

出版年は記載されていない。1905年から1909年に至るトルストイ最晩年の、標題に関連する論説を丹念にまとめたもので、軍役論、革命論も大きな比重を占めている。

31. Духоборцы. в начале 19 века. Записка 1805 года. Религиозные движения в России, выпуск 5. Издание "Посредника". No. 673. М. А. Печковский и П. Буланже. 1907. 24 с.

原著者名が見当たらないが、18世紀末から19世紀初頭のドゥホポールに焦点を当て、歴史、生活、信条を紹介したもの。なお、刊行者はトルストイらの設立したパスレドゥニクである。

32. Житомирская С. В. Владимир Дмитриевич Бонч-Бруевич. Историк-участники Октябрьской революции. "История СССР". М. 1967. No. 2, март-апрель, с. 96-104.

ジトミルスカヤは編者というべきで、ボンチ=ブルーエヴィチが自ら書いた自伝や研究歴を、革命50周年を記念して採録したもの。

33. Зибаров Н. С. О сожжении оружия духоборами. Рассказ. Пурлей, Эссекс. А. Чертков. Свободное слово. 28. 1899. 29 с.

著者はドゥホポール教徒。1895年のザカフカースにおける、歴史的な武器焼却事件を個人としてつづったもの。

34. “Искра”. сначала стенгазета, а потом журнал Союза духовных общин Христа. Гранд Форкс, Б. К. 1943-

U. S. C. C. の公式機関誌。はじめは、騰写版刷りの週刊新聞から出発し、既に1670号を超えるこんにち、平均70—80ページ建ての活版となり、月に2回刊行されている。ロシア語と英語の両語を併用し、社説、カナダ内外の新聞、雑誌からのドゥホポールに関係する記事の転載、メンバー古老の回想録、読者のページ、死亡記事など、極めてカラフルで、現在のドゥホポールを知るうえで不可欠の資料である。編集長はドミトリー・ポポフ氏で、異なった主張にも自由にページを開放することを大きく社是として掲げ、平和と民主主義がスローガンである。

35. Калмаков Н. Н. Духовные стихи и народные песни духоборцев в Канаде. Ричмонд, Б. К. Н. Н. Калмаков. 1973. 476 с.

36. Клибанов А. И. Народная социальная утопия в России. Период феодализма. М. Наука. 1977. 335 с.

科学アカデミー会員の著者は、ソ連における数少ない宗教史・宗教運動史の研究者であり、40年を越える研究実績は欧米でも高く評価されており、カナダ・ドゥホポールとも緊密な接触を有している。英訳された論文が多い。

37. Клибанов А. И. Народная социальная утопия в России. 19 век. М. Наука. 1978. 342 с.

38. Коммуна духоборов. In “Research program on the U. S. S. R.”. N. Y. East European Fund, Inc. 1953. pp. 53-61.

このロシア語の手稿を誰が草したか不明である。公刊にあたり、南カリフォルニア大学の K. Petrus が解説を附している。カナダからソ連に帰国したドゥホポールに関する、貴重にして重要な歴史証言である。彼等を持ち受けていた運命は、過酷としか言いようが無い。

39. Кропоткин П. А. Записки революционера. М. Мысль. 1966. 504 с.

日本でも邦訳され、よく読まれている『ある革命家の手記』。トルストイと並んで、ドゥホボールのカナダ移住に少なからず尽力したクロボトキンは、ちょうどドゥホボールの集団出国の時期にこの手記を書き、ドゥホボールにつき、こう記している。「名もない民衆の建設的な労働、社会形態の発展のなかでこれらの建設的な労働が果たす重要な役割が、私の目にはっきりと見えるようになったのである。たとえば私は、聖霊否定派信者（ドゥホボールツイ）たちの集団（いまカナダに移住しようとしていて、アメリカ合衆国で全面的な支持をえている仲間）がアムール地方に移住したやりかたを目撃したり、彼らとその半ば共産主義的な同胞組織によってえているはかりしれないほどの利益を見たり、国家の計画による開拓民がすべて失敗しているなかで、彼らの植民だけがすばらしい成功をおさめているのに気がついたりした…」（岩波文庫版，上，272—273ページ）。

40. Кругляк В. Моя поездка в общину духоборов. “Просвещение”. Нью-Йорк. 1918. т. 4, No. 3, с. 13-15. т. 4, No. 4, с. 9-11.

著者は不詳だが、ピョートル・マーロフは彼を「ドゥホボールの間で安易な生活を求めようとしたアウトサイダー」と呼んでいる。

41. Лебедев А. К. Василий Васильевич Верещагин. Жизнь и творчество. В кн.: Русские художники. Монографии. Верещагин 1842-1904. М. Искусство. 1958. с. 38-57, с. 345-346.

ヴェレシチャーギンのカフカース旅行の模様を描き、足跡をフォローしたもの。そのおり描かれた絵画のリストを載せている。ドゥホボールに関するものは12, 3枚含まれる。

42. Лебедев А. С. Духоборцы в слободской Украине. Харьков. Губернское правление. 1890. 31 с.

ハリコフの古文書を使用して書いた、18世紀末～19世紀初頭ウクライナのドゥホボール史。

43. Ливанов Ф. В. Тамбовские молокане и духоборцы в 18-ом веке.

Исторический очерк. “Всемирный труд”. СПб. 1867. No. 3, с. 245-297.

44. Ливанов Ф. В. Молокане и духоборцы в Украине и Новороссии. 18-й век. “Вестник Европы”. СПб. 1868. т. 5, с. 673-701, с. 809-836.

この論文は本格的なドゥホポールに関する学術論文であり、18世紀のモスクワ・アルヒーフ資料を駆使して、ドゥホポールのルーツに接近している。

45. Ливанов Ф. В. Раскольники и острожники: очерки и рассказы. СПб. М. Хан. 1872. В 4-х томах.

ウッドコックが、ドゥホポールに関して最も豊かな、そして同時に最もセンセーショナルな原典資料と呼んだものであり、関説範囲は多岐を極めている。後年、チェルトコーフやポンチ=ブルーエヴィチの多く引用するところとなったが、伝聞が少なくない。

46. Ливанов Ф. В. История духовных христиан молокан. Очерки, рассказы и сочинения Ф. В. Ливанова. Сан-Франсиско. Первая русская молоканская церковь. 1979. 721 с.

ウッドコックのみならず、ソ連の史家クリバーノフのこの著者に対する批判は厳しい。彼のばあい、資料の博搜にもかかわらず、ドゥホポールを国家と教会の敵と位置づけることを問題にしている。ともあれ、本格的な異端派研究の端緒という評価は動かない。モロカンが、彼の旧著の一部を編集して再刊したのも、それによる。

47. “Листки свободного слова”. No. 3. Повременное издание. Под ред. В. Черткова. февраль 1899. Эссекс. 61 с.

トルストイの『愛の要求』が巻頭にあり、続いてドゥホポールに就いての情報が29ページに及んで記され、福音（バプテスト）派の消息にも紙幅を割いている。また、ソローの国家論やクロボトキン伝（『ある革命家の手記』）の一節が見られる。32ページに及ぶ付録は、専らドゥホポールの移住問題に当てられている。

48. Максимов С. В. Мателиары для истории русского сектантства. Дело о духоборцах находящихся в Сибири, 1817–1820 г. Рязань. Братство св. Василия. 1897. 22 с.
49. Маленькие и местные журналы.
“Вестник духовной свободы”. Крестова, Б. К. 1961–.
“Луна”. Слокан Валлей, Б. К. 1963–1964.
“Мечта”. Гранд Форкс, Б. К. Под ред. П. Планедина. год неизв.
“Просвещение”. Н.-Й., США. 1915–1920.
“Рассвет духоборческий”. Трумс, Б. К. Под ред. П. Н. Малова. 1954–.
“Сионская звезда”. Коотнэй, Б. К. 1962–.
“Сияние”. Отчешение, Б. К. Под ред. Г. Казакова. 1964–.
“Призыв к молодежи”. Гранд Форкс, Б. К. Союз духовных общин Христа. 1960–.
“Утешение”. Отчешение, Б. К. Под ред. В. В. Канигана. 1962–.
“Христианский перец”. Гранд Форкс, Б. К. Под ред. П. Медведева. 1962–.
50. Малов П. Н. Духоборцы, их история, жизнь и борьба. К 50-летию пребывания духоборцев в Канаде. Трумс, Б. К. 1948. 607 с.
筆者はかつてドゥホボールのうちでも狂信派に属していたがのち独立派となり、ドゥホボール史を内部から書く最初の榮譽をになった。それまで殆ど部外者によって著わされてきたドゥホボール史は、これを端緒に漸増する。主観と偏向を排した公正な筆は、ヴェリーギンのカナダ到着迄の歴史をよく捉え、第二部では回想、私信その他の資料を多数集めて収録している。
Doukhobors: their history, life and struggle. Translation of the above. Thrums, B. C. s. n. 1956. 607pp.
51. Малышев В. И. Народные предания о протопопа Авакуме.
“Wiener slavistisches Jahrbuch”. Wien. 1966. Bd. 4, S. 22–31.

52. Меликсет-Бек Л. Л. Из истории духоборов в Грузии 19 века. Тбилиси. Тбилисский государственный университет. 1964. Автореферат диссертации. 33 с.

53. Мельников П. И. Очерки поповщины. Полное собрание сочинений. Изд. второе. СПб. А. Ф. Маркс. 1909. т. 7, с. 384-409.

メリニコフの功績は、分離派の実数を把握するため、社会統計学の方法を駆使し、貴重な統計データをまとめている点にある。

54. Митрохии Л. Н. Изучение сектантства в тамбовской области, по материалам экспедиции АН СССР. "Вопросы философии". М. 1960. No. 1, с. 143-148.

数少ないソ連の類似論文の中で、ひときわ目立つ良質の研究報告である。成果はソ連全土ではなく、狭い、地方的なタンボフ地区に限定されているものの、N. Struve が「異端派の現状についての、唯一の科学的な刊行物」と評している。

55. Моргачев Д. Письмо Д. Моргачева Клибанову, А. И., доктору исторических наук в СССР. 27 декабря, 1975. С предисловием по-английски П. П. Легебокова. Кастлегар, Б. К. 1976. 13 с.

これは、1974年にソ連の著名な宗教史家クリヴァーノフの論文『宗教的分離派の世界で』に対する批判の手紙である。いささか私的な資料に思われるが、ソ連国内ドゥホポール共同体の存廃の事実経過に関わる重要な論点を含んでいるので、敢えて採録した。

56. Муратов М. В. Духоборцы в восточной Сибири в половине 19 века. "Иркутский университетский сборник". Иркутск. 1923. т. 5, с. 75-126.

別記リヴァーノフとノヴィツキーの著作をベースに、イルクーツク裁判所の法廷記録により、流刑中のドゥホポールの実態を把握しようとしたもの。

57. Нижегородец (без им. и отч.) Русские коммунисты = духоборы.

М. А. И. Мамонгов. 1906. 15 с.

1891年カフカースのドゥホポールを訪問したおりの記録。

58. Никольский Н. М. Духоборцы в молokane. В кн.: История России в 19 веке. СПб. Гранат. 1907-1911. т. 5, с. 261-275.

59. Новицкий О. М. Духоборцы: их история и вероучение. Изд. 2-ое, переделанное и дополненное. Киев. Университетская типография. 1882. 282 с.

初期の本格的な研究として、見逃すことの出来ない重要な著作である。著者は正教会の司祭だが、ドゥホポールの教義と信仰を箇条化して整理・要約。正史を持たなかったドゥホポール自身にもカテキズムとして利用された。初版は、博士号を取得する目的で、キエフの神学雑誌に「ドゥホポール試論」として発表され、はるかにコンパクトでハンディーであったため、ハクスタウゼンによれば、ドゥホポールの間でひっぱり尻となり、高価な価格で売買されたという。ボンチ=ブルーエヴィチによれば、初版のほうが遙かに公正であったが、入手は極めて困難である。

60. Обращение канадских духоборов ко всем людям и другие документы по столкновению их с канадским правительством. С предисловием П. Бирюкова. Онекс, около Женевы. 1901. 64 с.

61. Общество Духоборцев Канады. Устав Общества Духоборцев Канады. Салмо, Б. К. 1967. 14 с.

62. Окулевич Г. Духоборы. В "Русские в Канаде". Toronto. Federation of Russian Canadians. 1952. pp. 42-68, 136-146.

63. Ольховский В. К истории русского духоборчества. "Образование". СПб. 1905. No. 9, с. 27-56. No. 10, с. 145-203. No. 11-12, с. 52-80.

カナダ出国に至る迄のヴェリーギンを描いた伝記である。

64. Панкратов А. С. Ищущие бога : очерки современных религиозных исканий и настроений. М. А. А. Левенсон. 1911. I & II. 193 с. и 191 с.

65. Поздняков В. Рассказ духоборца Васи Позднякова. С приложением документов об избиении и изнасиловании духоборческих женщин казаками. Под ред. и с примечаниями В. Бонч-Бруевича. Ганц. А. Чертков. 1901. 45 с.

66. Попов И. А. Рассказы из истории духоборцев. 2-ое изд. Гранд Форкс. Искра. 1966. 46 с.

著者のポポフはドゥホボール史の正史確立に内部から着手した数少ない先駆者の一人で、英訳版（別掲）もあり、セルカーク大学人類学叢書203に含まれている。

A tales of Doukhobor history. Translated by J. Wishlov. Castlegar, B. C. Selkirk College. 1977. 36p.

67. Поракишвили З. И. Духоборы в Грузии. Тбилиси. 1970. 146 с.

本書は、無神論の立場からのイデオロギー的前提が先行しているとはいえ、分離派の中でも左翼に位置してきたドゥホボールを、社会学的手法により現実の中でより公正に捉えなおそうとする姿勢がうかがわれる。ソ連における新しい研究傾向の端緒として注目してよい。

68. Пятницкий И. К. Секта странников и её значение в расколе. СПб. И. Л. Тузова. 1912. 238 с.

69. Р. Д. Вне закона. "Освобождение". Стуттгарт, Германия. 1902. No. 1, с. 76-101.

この匿名の評論は、良心の自由を尊重すべきとの立場から、ロシア政府ならびに教会の異端派弾圧へ批判の矢を向けている。なお、掲載雑誌は国外に拠ってロシア政府を批判するリベラル左派により、1902年7月1日に創刊された。

70. Рыбин С. Ф. Труд и мирная жизнь. История духоборцев без маски. Сан Франсиско. Дело. 1952. 338 с.

特定の集団の内部に位置して、のち集団から離脱した人間の立場は微妙である。著者のルイピンがそうであり、カナダ・ドゥホボール初代リーダーであるヴェリーギンの通訳として活躍し、次のヴェリーギンとも親交があったものの、1927年にはカリフォルニアへ移った人物であり、内部のメンバーによる批判は厳しい。しかしながら、元来無筆にも拘わらず、真実を再現しようとする努力には並々ならぬものがある。

Reibin, S. F. *Toil and peaceful life: history of Doukhobors unmasked*. Translated by J. D. Buhr & I. A. Dyck. Clearbrook, B. C. J. D. Buhr. 197? 250p.

71. Рынжуский П. Г. Антицерковные движение в тамбовском крае 60-х годах 18 века. "Вопросы истории религии и атеизма". М. 1954. т. 2, с. 154-193.

72. "Свободное слово". Под ред. Черткова. Ганц, Англия. 1901-1905. No. 1-18.

『自由な言葉』と題されたこの雑誌は、1899年8月1日にジュネーヴにおいてピリュコーフにより創刊された雑誌『自由な思想』を継承したものである。チェルトコーフの印刷所は、英語とロシア語で主にトルストイの著作を刊行した。本誌はそのうち、ドゥホボールに関する手紙、請願、報告を収録して、ロシア国内の読者に訴えた。また、シリーズ物として、例えばトルストイについては以下のような著作を出している。

Свободное слово 8. Об отношении к государству. Эссекс. 1900.

Свободное слово 17. Не в раз. Ганц. 1905.

Свободное слово 42. Не уби, по поводу убийства короля

Гумбетта. Эссекс. 1900.

Свободное слово 96. Что нужно рабочему народу? Как освободиться рабочему народу? Об освобождении земли по системе Генри Джоржа. Ганц. 1905.

Свободное слово 98. Великий грех. Ганц. 1905.

Свободное слово 99. Единое на потребу: о государственной

власти. Ганц. 1905.

73. Скальковский А. А. Русские диссиденты в Новороссии. “Киевская старина”. Киев. 1887. т. 17, с. 771-782.

筆者が若い頃訪問した黒海沿岸のドゥホボールについての回想記。

74. Скворцов В. М. Правда о закавказской духоборческой секте. Киев. И. И. Соколов. 1898. 40 с.

筆者はこの翌年の1899年にも、「聖者ドゥホボールのアメリカ移住運動」を書き、この頃のドゥホボールの動きを逐一フォローしている。

ただし、正教会の正式認可を得て書かれたこの小冊子は、正教会の立場を擁護し、その見解を代弁したものと言えよう。トルストイらの支持を牽制し、ドゥホボールをアナキストと捉え、カナダ移住に好意的な内外のジャーナリズムを駁論しようとする試みである。

75. Сковорода Г. С. Собрание сочинений. т. I. СПб. 1912. 544 с.

識字率の低かったウクライナ・ロシアの農民を主要メンバーとしたドゥホボール集団は、内部から自己史を構成することが遅れ、初期には局外者や部外と同調知識人の手で、歴史が書かれた。18世紀ウクライナの傑出した知識人スコヴォロダーもしかりであり、政府公文書、古記録にドゥホボールが名を止めるに至ったのは、スコヴォロダーの功績と言ってよい。

76. Сорокин С. С. Послания, письма и речи, 1948-1954. С приложением писем и речей П. В. Веригина и П. П. Веригина. 1954. В 2-х томах. 84 с. и 94 с.

ソローキンは3年半に及んで、所謂「自由の息子」あるいは「フリードマイツ」の間で強い影響力を行使した、ヴェリーギン三世の偽称者である。1929年にソ連を離れ、中近東やヨーロッパを転々としてカナダに辿り着き、マルコーヴァのカナダ到着迄、ドゥホボールを欺き続け、抛金を持ってウルグァイに逃亡した人物である。「自由の息子」派の一時代を理解するうえで、逸過し得ぬ人物である。なお、ソローキンのカナダ滞在は1949～1952年であった。

77. Сорокин С. С. Три дня и три ночи в загробной жизни. Кресцент Валлей, Б. К. 1950. 197 с.

78. Союз духовных общин Христа. Рождественские стихи и песни. Гранд Форкс, Б. К. Изд. Союза духовных общин Христа. 1976. 26 с.

79. Союз духовных общин Христа. Сборник духоворческих псалмов, стихов и песен. Гранд Форкс, Б. К. Союз духовных общин Христа. 1978. 752 с.

ドゥホボールがこれ迄長い歴史の中で歌い継ぎ、祈り継いできた聖歌、詩篇、古謡を集大成した、バイブル的性格を持った貴重なハンドブック。元來文字による伝統の形成を排斥してきたドゥホボールは、歌と語りで自己史を伝承してきたが、この段階で漸く集成の試みが実現した。ボンチ=ブルーエヴィチが、歌うドゥホボールをいみじくも『生きている本』と呼んだ。これからはこの本を手には、ドゥホボールは歌い続けることになろう。また、ロシア正教、分離派、旧教徒の伝統迄が一部受け継がれているところから、現代ソ連に途絶えた伝統と文化を伝えている点でも、興味深い。なおここでは割愛したが、他にレコードやテープも存在することを付記しておく。

80. Союз духовных общин Христа. Стихи и псалмы для детей и молодежи. Гранд Форкс, Б. К. Комитет детских воскресных собраний СДОХ. 1974. 68 с.

81. Union of Spiritual Communities of Christ.

Каталог книг в Центральной библиотеке Союза духовных общин Христа. Гранд Форкс, Б. К. 1956.
Mimeographed.

82. Союз канадских духовоборов. Духовные стихи и народные песни. Саскачуан. Союз канадских духовоборов. 1962. 408 с.

83. Сулержицкий Л. А. В Америку с духоборами. М. Посредник. 1905. 331 с.

ドゥホボールのカナダ移住に際して、トルストイの勧めに応じて果たしたスレルジツキーの役割は大きく、単なる通訳・仲介者以上の重要なものであった。

Sulerzhitski, L. A. To America with the Doukhobors. Translated by L. Kalmakov. Introduction by M. Mealing. Regina, Sask. Canadian Plains Research Center. Univ. of Regina. 1982. 215p.

84. Сухорев В. А. Документы по истории духоборцев и краткое изложение их вероисповедания. Норд Килдоман, Манитоба. 1944. 302 с.

スハリョーフは1930年代にヴェリーギンの私設秘書を勤めた人物であり、第二次世界大戦の現実の中にあって、「汝、殺すなかれ」の実践倫理を大きく叫ぶことにより、戦争に反対するドゥホボールを強く印象づけ、また内部の大同団結をはかるべく、本書を書いた。

85. Тан В. Г. Духоборы в Канаде. Собрание сочинений. т. 7. СПб. Просвещение. 1911. 245 с.

著者はニューヨークに長く滞在して都会文明に飽き、ちょうど指導者ヴェリーギンをロシアから迎え、緑豊かなプレーリーで新天地開拓の意気に燃えるドゥホボール共同体を1902年に訪問した。その折りの記録である。

86. Тебенков М. Духоборцы, их учение, организация и настоящее положение. "Русская старина". М. 1896. т. 87, с. 257-293 и с. 493-526.

87. Туган-Барановский М. И. Величайшая в мире коммунистическая организация община духоборов. Библиотека кооператора No. 57. Харьков. Всероссийский центральный союз потребительных обществ. 1919. 40 с.

いわゆる「合法的マルクス主義」で知られ、その恐慌理論で著名とな

ったツガン=バラノフスキーは早くから協同組合にも関心を示し、そのシリーズの一つとして本書を著した。しかし、ヴェリーギンに率いられたカナダ・ドゥホボールの実態をやや美化しているものの、著者は革命後ソヴィエト政権の政策に対比して、ポリシェビキの強引な方針を暗に批判することに、むしろ力点が置かれている。

88. Федоренко Ф. Секты, их вера и дела. М. Политическая литература. 1965. 358 с.

89. Харламов И. Духоборцы. Исторический очерк. "Русская мысль". М. 1884. т. 5, No. 11, с. 138-161. No. 12, с. 83-114.

18世紀からのドゥホボール集団の発展史を、主としてノヴィツキーに基き再説したもの。

90. Хомякова С. Духоборы. М. Дело. Историческая библиотека No. 33/34. 1912. 159 с.

91. Чернов М. М. (сост). Сборник документов Союза духоборцев Канады и Общества духоборцев Канады. Кастлегар, Б. К. Союз духоборцев Канады. 1973. 228 с.

92. Чертков В. Г. Напрасная жестокость. О том, нужно ли для правительства делать мучеников из людей по своим религиозным убеждениям не могущих участвовать в военной службе. 2-ое изд. Лондон. В. Чертков. 1897. 24 с.

ロシア、キプロス、カナダの全域を通し、ドゥホボールに関する貴重な情報を提供すると同時に世界に向けた世論形成にチェルトコーフの果たした役割は大きい。ビリュコーフと共に師トルストイの教えを実践、エセックスとハンツで定期刊行物『自由な言葉』を出し続け、ジュネーヴのビリュコーフと連携し、またイギリスのクェーカーの協力でドゥホボール支援に最大の効果を発揮した。別掲した以外の、『自由な言葉』シリーズにロシア語で書いたものを付記しておこう。

Свободное слово 11. Где брат твой? Эссекс. 1898.

Свободное слово 33. Финляндский разгром: сборник. Эссекс. 1900.

Свободное слово 41. Практический учебник английского языка. Лондон. 1900.

Свободное слово 88. Исповедь сектанта. Ганц. 1904.

93. Чертков В. и А. (сост.) Духоборцы в дисциплинарном батальоне. Ганц, Англия. А. Чертков. Издание Свободного слова No. 53. 1902. 64 с.

チェルトコーフの出版活動には、大きな転換点が存在する。イギリス亡命後の1897年から1902年迄は、ボンチ=ブルーエヴィチが編集に参加していたが、それ以降の時期分離派の評価をめぐって見解の相違が明確となり、後者は編集から除外されるに至った。出版地変更の一因は、そこにもある。この著作は、新編集部による第一弾であり、ドゥホボール自身の手紙と談話中心に記述された軍隊におけるドゥホボールの行動を、反戦・反軍ではなく、「汝、殺すなかれ」の信仰箇条に力点をおいてとらえようとする。

94. Чертков В. Г. Переселение якутских духоборов в Канаду. “Свободное слово”. Ганц, Англия. 1905. No. 18, с. 41-43.

シベリア流刑のため一足遅れたヴェリーギンらの、1902年カナダへの出国に触れたもの。

95. Щербинин М. А. Очерки жизни среди духоборов. “Просвещение”. Нью-Йорк. 1917. т. 3, No. 10, с. 5-6.

96. Э. Р. Русский раскол и законодательство. “Вестник Европы”. СПб. 1880. т. 2, с. 512-552.

97. Ю. Духовные христиане. Очерк. “Вестник Европы”. СПб. 1880. т. 6, с. 1-34.

98. Яковлев А. Н. Духоборы. Плакун трава, плывущая напротив воды. Торонто. 1983. 61 с.

ヤーコヴレフは、ゴルバチョフ政権下のソ連で一躍有名になった改革派のブレーンである。1983年世界経済国際関係研究所長、1986年党書記、昨年には更に政治局員に選ばれている。今や、ソ連の文化政策のみならず、内政外交においても重要な役割を演じつつある人物である。それがカナダでこのようなドゥホボール論を書いているのは、ブレジネフ時代にカナダ大使の任に就いていたからである。これが1982年に刊行されたタラーソフの仕事に刺激されたことは間違いなく、主としてスハリョーフのようなロシア語文献に依拠して、カナダ・ドゥホボールの歴史と現実をかなり公平に描き出している。なお、本論はタイプによる手稿だが、ソ連で出版される可能性が高い。

99. Ясевич-Бородаевская В. И. Борьба за веру. Историко-бытовые очерки и обзор законодательства по старообрядчеству и сектантству. СПб. Государственная типография. 1912. 656 с.

エカチェリノスラフの分離諸派を取りあげたもので、ドゥホボールの他に無為派、鞭身派、はい回派、シトゥンダ派、バプテスト派が考察されている。併せて、旧教や分離派に対する膨大な量の政府関連資料と法規を所収している。

B

1. Allen, W. A visit to the Doukhobors in 1819. In his "Life of William Allen, with selections from his correspondence." London. C. Gilpinn. 1846-47. v. 2, pp. 61-63.

著者はクェーカーで、ヨーロッパ宗教遍歴の一環として、カフカースのドゥホボールを訪問した。

2. Anderson, A. B. Assimilation in the block settlements of north-central Saskatchewan. Unpublished Ph. D. thesis in sociology. Univ. of Saskatchewan, Saskatoon. 1972. 395 p.

3. Archives Board of Saskatchewan. List of archives material on

Doukhobor immigration and settlement in Saskatchewan, Regina. The Board. 1974. 3p.

4. Arndt, A. Das Sektenwesen in der russischen Kirche. "Zeitschrift für katholische Theologie". Innsbruck. B. 14. 1890. S. 416-446.

帝政ロシア期分離派に関する統計資料を載せている。

5. Ashworth, J. The Doukhobortsy and religious persecution in Russia. A lecture delivered in 1900, at the Friends Meeting House. Mount St. Manchester. 1900. 15 p.

ドゥホポール移住に協力し、カナダで救援に携わった Quaker の、現状報告会での談話。

6. Ashworth, M. The forces which shaped them: a history of the education of minority group children in British Columbia. Vancouver. New Star Books. 1979. 238 p.

第4章(133—172ページ)を、ドゥホポール論に当てている。

7. Association of Canadians of Russian descent. Cultural festival. July 6-7, 1969. Verigin-Kamsack, Sask. Grand Forks Gazette Printing Co. 1969. 48 p.

8. Avrich, P. The Russian anarchists. Princeton, New Jersey. Princeton U.P. 1971. 303 p. (First ed. in 1967)

本書は直接ドゥホポールを論じた箇所は殆ど無いが、ロシアにおけるドゥホポールの歴史的背景を知るうえに必要な文献であり、またクロボトキンには多くのページが割かれている。

9. Avrich, P. The Sons of Freedom and the promised land. "Russian Review". N. Y. v. 21. 1962. pp. 264-276.

本格的な「自由の息子」論としては、初期に属する研究論文。著者はこのグループをキリスト教的アナーキストとして位置づけ、その反国家

と反中央集権の行動を前向きに評価している。

10. Bach, M. Douks are at it again. "Christian Century". Chicago. v. 70. 1953. pp. 1452-1454.

ドゥホボール子弟の一般学校への強制就学に端を發した集団放火ののち、「自由の息子」たちはスローカン谷にテント暮らしを行なった。その状況を報告したもの。やや批判的な扱いだが、ドゥホボールの素朴な歌唱を評価している。

11. Bach, M. The Doukhobors. In his "Strange sects and curious cults". N. Y. Dodd. 1961. pp. 182-201.

やや厳密さを欠いた、ドゥホボール史の叙述である。

12. Baker, N. E. Among the Doukhobors in Canada. "Missionary Review of the World". London. v. 24. 1901. pp. 575-581.

著者は、ドゥホボールのカナダ集団移住直後、その子弟の教育に携わるため、クェーカー団体から派遣された青年教師。

13. Ballantyne, J. The Doukhobors. "Westminster". Toronto. v. 18 (Jan.), pp. 10-17. v. 18 (Feb.), 1911. pp. 113-119.

著者はドゥホボールの指導者ピョートル・ヴェリーギンの力量を高く評価、またドゥホボールをアナバプテスト派の流れの中に位置づけている。

14. Bell, A. Sunset Canada: British Columbia and beyond. Boston. Page, 1918. 320 p.

ブリティッシュ・コロンビア州内に居住するドゥホボール他、各種民族の動向を調査したもの。

15. Bellows, J. The Doukhobors. In his "Letters and memoir". Ed. by his wife. London. Kegan Paul. 1904. pp. 163-164; 212-220; 318-337.

クェーカー教徒の、カフカース在住ドゥホボール訪問記。

16. Bennett, W. A. C. Doukhobors. Excerpt from Premier W. A. C. Bennett's policy speech in British Columbia Legislature, September 18, 1953. Victoria. Queen's Printer. 1953. 8p.

著者のベネットは、1952年からブリティッシュ・コロンビア州の政権を担当した Social Credit Party のリーダー。政策側の、対ドゥホボール強硬姿勢が強く反映されている。

17. Bernard, L. The Canadian Doukhobor settlements: a series of letters by L. Bernard. Toronto. W. Briggs. 1899. 69 p.

著者は、カナダに到着したばかりのドゥホボール救援に駆けつけた一人で、アシニボイアとサスカチュワンに入った。病気と飢えによる惨状にも拘わらず、ドゥホボールの勤勉とまじめさはカナダの将来を利するであろうと述べ、教育や農業技術の面で緊急の協力をカナダ側に呼びかけている。

18. Berry, W.G. Doukhobor sect poses problem. "Christian Century". Chicago, v. 67. 1950. pp. 737-738.

いわゆる Sons of Freedom の暴力行為がもたらした社会問題をめぐり、U. B. C. (ブリティッシュ・コロンビア大学)は、アメリカの Friends Service Committee らの協力を得て調査に着手、筆者はその事に触れている。

19. Bienstock, J.-W. Léon Tolstoï sur les Doukhobors. "Revue Blanche". Paris. t. 18. 1899. pp. 79-80.

本稿が対象とするドゥホボールは、キプロス島に移住した時期であり、トルストイがさらに彼等をカナダへ移住させるため、資金捻出に奔走していることが報告されている。

20. Bienstock, J.-W. L'émigration des Doukhobors. "Revue Blanche". Paris. t. 23. 1900. pp. 431-435.

バツミからドゥホボールが出港し、カナダへ到着後に差し伸べられた様々な援助が描かれている。

21. Bienstock, J.-W. Tolstoï et les Doukhobors; faits historiques réunis et traduits du russe par J.-W. Bienstock. Paris. Stock. 1902. 284 p. (Bibliothèque sociologique, No. 32)

ピリュコーフのドゥホポールとの出会い、トルストイの『タイム』宛ての手紙、ロシアでの迫害とカナダ政府との衝突を内容としている。

22. Biriukov, O. Memoirs of my father and mother. "Inquirer". Saskatoon, Sask. v. 2, No. 11. 1955. pp. 16-18; no. 12. 1956. pp. 20-24; v. 3, No. 1. 1956. pp. 28-33; No. 2. 1956. pp. 36-41.

オリガはピリュコーフの娘で、ジュネーヴに在住し、父母の思い出をつづったもの。

23. Black, N.F. Immigration from South Eastern Europe. In his "History of Saskatchewan and the old North West". Regina, Sask. North West Historical Co. 1913. pp. 509-520.

24. Blackwell, W.L. The old believers and the rise of private industrial enterprise in early nineteenth century Moscow. "Slavic Review". Seattle. v. 24, No. 3. 1965. pp. 407-424.

トッガン=バラノフスキーが初めて指摘した、ロシア産業社会の企業家層を支える特徴的な社会階層・旧信徒に焦点を当て、その特有の信仰が資本蓄積に寄与したとする。

25. Blakemore, W. British Columbia. Commission on matters relating to the sect of Doukhobors in the province of British Columbia. Report. Victoria, B.C. King's Printer. 1913. 66 p.

26. Bludov, P. Doukhor marriage rites. "Inquirer". Saskatoon, Sask. v. 3, No. 5. 1956. p. 6.

筆者はサスカチュワンで農業を営んでいる。つまり、独立派のドゥホポールとして、古式にのっとり伝統的な婚礼を遵守する一方で、カナダの婚姻法に従う考え方を示している。

27. Bochemuehl, H.W. Doukhobor impact on the British Columbia landscape; a historical and geographical study. M.A. thesis Western Washington State College. Bellingham, Washington. 1968. 111 p.
28. Bolshakov, S. Russian nonconformity; the story of unofficial religion in Russia. N.Y. AMS Press. 1973. 192 p.
29. Bonch-Bruevich, V. (ed.) The book of life of Doukhobors. Translated version. Blaine Lake, Sask. S.G. Skupnikov. 1978. 320 p.
30. Bradley, A.G. The Doukhobors. In his "Canada in the twentieth century", Westminster. Constable. 1905. pp. 297-303.
31. Bradley, K.J. Factionalism in the Doukhobor movement. M.A. thesis in anthropology, University of Calgary. Alberta. 1976. 89 p. private edition.
32. Bradley, K.J. Factionalism in the Doukhobor movement. M.A. thesis in anthropology, Univ. of Calgary. Calgary, Alberta. 1976. 89 p.
33. Brock, P. Vasya Pozdnyakov's narrative. "Slavonic and East European Review". Menasha, Wis. v. 43, No. 100. 1964. pp. 152-176; No. 101. 1965. pp. 400-414.

傾向分析，時系列による変動因子の追跡，歴史文献の分析などの方法を駆使して，ドゥホポール各派間の対立と論争を解明しようとする試み。カリスマ性の高い権威の時期に対応して，対立・論争の頻度が相関するとの結論は，興味深い。

34. Bryce, P.H. A day with the Doukhobors of the Kootenay valley, British Columbia. In his "Value to Canada of the Continental immigrant". Ottawa. 1928. pp. 26-29.

執筆者は、連邦移民局の検疫官として、20年間勤務した人物。

35. Buhr, J.D. Herkunft der Duchoborzy. "Mennonitische Rundschau". Winnipeg. August 1966. S. 11-12.

36. Buhr, J.D. Johann Cornies. Geschichtlicher Beitrag. "Mennonitische Rundschau". Winnipeg. Februar 1968. S. 14-15.

ドゥホボールに精通したメンノ派 Cornies の略伝。ハクスタウゼンの調査に協力した人物。

37. Burnham, D.K. The comfortable arts; traditional spinning and weaving in Canada. Ottawa. National Gallery of Canada. 1981. 238 p.

38. Burniak, V.O. Aylmer Maude on practical application of the non-resistance doctrine and its implication in establishment of Tolstoian and Doukhobor colonies. "Canadian Ethnic Studies". Calgary. v. 1, No. 2. 1969. pp. 87-94.

39. Burniak, V.O. Place names of the early Doukhobor settlements in Saskatchewan. In "Slavs in Canada. Proceedings of the Third National Conference on Canadian Slavs". v. 3. 1971. pp. 143-149.

40. Callwood, J. Emma. Toronto. Stoddart. 1984. 277 p.

この女流作家の作品はカナダのスパイ小説であり、この目録にはいささかなじまない。これは1945年、カナダでは所謂グジェンコ事件として知られるスパイ事件で逮捕、投獄された女性を主人公とする、実録物でもある。ところがエンマ・ヴォイキンはサスカチュアンのドゥホボール出身であった。ここに採録したのはその為であり、アルヒーフを利用して

書かれた作品は、またサスカチュアン・ドゥホボールの過去の歴史をかなり忠実に再現している。序で乍ら、作者は主人公に同情的である。

41. Canadians of Russian origin: Doukhobors. Background and settlement. "Citizen". Ottawa. v. 9. 1963. pp. 14-23.

匿名の論説だが、カナダのロシア人人口に言及している興味深い資料。1961年には、センサスで11万9168人となっている。筆者は諸種の因子を勘案してこれを10万以下と推定する。そして、ドゥホボールは1万3000との数字を掲げる。

42. Careless, J. M. S. The Doukhobors. In his "Canada: a story of challenge". Cambridge. The Univ. Press. 1953. p. 304.

ドゥホボール少数派の抱く宗教的理想のカナダ社会への不適合は、ごく稀なケースとする。

43. Case, C. M. The Doukhobors. In his "Non-violent coercion; a study in methods of social pressure". N. Y. Century. 1923. pp. 113-117, 161-163, 202.

著者は、ドゥホボールとQuakerの差異を指摘する。紛争を好む社会心理は、論理上の墮落を伴うとして、暗にSons of Freedomを批判する。

44. Cherniavsky, M. Old believers and the new religion. "Slavic Review". Seattle. v. 25, No. 1. 1966. pp. 1-39.

筆者は、ロシア社会に生じた複雑な変化の過程で、旧信徒と分離派がからみ合う様相を解明する。

45. Chertkov, V. G. Christian martyrdom in Russia. Persecution of the Spiritwrestlers (or Doukhobortsi) in the Caucasus. Containing a concluding chapter and letter by Leo Tolstoy. Ed. by V. G. Chertkov and preface by J. C. Kenworthy. London. Brotherhood Pub. Co. 1897. 110 p.

Christian martyrdom in Russia. An account of the members

of the Universal Brotherhood of Doukhobortsi now migrating from the Caucasus to Canada. Containing a concluding chapter and letter by Leo Tolstoy. With an introduction by J. Mavor and preface by J.C. Kenworthy. Toronto. G.N. Morang. 1899. 110 p.

Christian martyrdom in Russia. The persecution of the Doukhobors. With concluding chapter and letter by Leo Tolstoy, and the story of the deliverance. London. Free Age Press. 1900. 78 p.

46. Chertkov, V. Latest news from the Doukhobortsi. Supplement to "New Order". London. Brotherhood Pub. Co. 1898. 2 p.

ドゥホポール関係資料の中に占めるチェルトゥコーフの位置は大である。些細なデータも細大漏らさずチェックす可きであろう。

47. Chertkov, V.G. (ed.) Persécutions religieuses à la fin du XIXe siècle: les Doukhobors. Extrait de "Christian martyrdom in Russia" et traduction approuvés par l'auteur. Havre. F. Le Roy. 1899. 16 p.

48. Christian Community and Brotherhood of Reformed Doukhobors. A public indictment of J.J. Verigin, Secretary of the Orthodox Doukhobors, for his deliberate distortion of the basic principles of the Doukhobor faith. Krestova, B.C. s.n. 1954. 22 p.

49. Christian Community and Brotherhood of the Reformed Doukhobors in British Columbia. An open letter-appeal to the Society of Friends (Quakers) living in Canada and in the United States of America. Crescent Valley (Krestova), B.C. May 24, 1954. Published by Canadian Friends' Service Committee. Toronto. 1954. 51 p.

この長文の書簡は、所謂 Sons of Freedom 達によって草された。ドゥホポール子弟の公教育への就学に強く反対するこのドゥホポール

派は、就学に賛成する仲介者クエーカーの斡旋と介入に抗議。Emmet Gulley らの代表団引き揚げを直訴したものである。

50. Christian Community and Brotherhood of Reformed Doukhobors. Petition to the government and people of Canada. Kootenay, B.C. Argus Printers. 1954. 53 p.

51. Chutskov, W.F. Doukhobors in USSR. "Inquirer". Saskatoon. v. 5, No. 1-2. 1958. pp. 16-18.

極めて珍しいレアな論説である。なぜなら、筆者はソ連在住のドゥホボールだからであり、トビリシ市で数学教師を勤める人物だからである。彼はソ連内のドゥホボール数を2万人とし、ここではドゥホボールにとって歴史的意義を有するザカフカースのボグダノーフカ村の実態に触れ、顕著な酪農の成功ぶりを伝えている。

52. Chutskov, W.F. Reminiscences of February, 1942. "Mir". Grand Forks, B.C. No. 11. 1976. p. 35 & p. 41.

53. Chyzhevski, D. Zwei Ketzer in Moskau. "Kyrios". Königsberg. Bd. 1, Nr. 1-2. 1942-43. S. 29-61.

ハレに現存する書簡を拠り所に、狂信的予言者 Kuhlmann 処刑の様を伝える。

54. Clark, B.W. Huterian communities. "Journal of Political Economy". s. 1. v. 32. 1924. pp. 357-374.

ここではアメリカ合衆国の Huterian Brethren が主題だが、質素を極めるドゥホボールの生活費は、Huterian のそれと比較するならやや高いと指摘する。

55. Clubb, S. Toil and peaceful life. "Arbos". Saskatoon, Sask. v. 2, no. 5. 1966. pp. 15-23, 35.

56. Commeree, D.L. Migration of the Sons of Freedom (Lower

Mainland). D.L. Commeree, I.J. Foerster & W.B. Mundy.

M.A. thesis in School of Social Work. University of British Columbia. Vancouver, B.C. s.n. 1964. 1 v. various pagings.

別掲の Foerster 論文, Mundy 論文と共に, 3部構成で Sons of Freedom の移動と行進を論じたもの。1961—62年に向け, テロと放火行為により95名の Freedomites が投獄され, それに抗議する大規模な集団行動を逐一記述した言わば総論篇。49ページ。

57. Conybeare, F.C. The Doukhobortsy. In his "Russian dissenters". Cambridge, Mass. Harvard U.P. 1921. pp. 267-287.

The Doukhobortsy. In his "Russian dissenters". N.Y. Russell & Russell. 1962. pp. 261-326.

ロシアの多岐に亘る資料を紹介, ドゥホボールの教理に関しても詳しく記しており, ロシア農民の真の魂を最もよく体現するものと評する。

58. Copping, A.E. Among the Doukhobors. In his "Canada today and tomorrow". London. Cassell. 1911. pp. 99-108.

サスカチュアンのヴェリーギン村訪問記。

59. Cormie, J.A. The strangers within our gates: the foreign population of the Canadian West. "Westminster". Toronto. v. 4. 1904. pp. 343-348.

カナダ・ドゥホボールから, トルコのスルタンへ当てた移住嘆願書が所載されている。

60. Cormie, J.A. Will the Doukhobors survive? "University Magazine". Montreal. No. 10. 1911. pp. 589-596.

北サスカチュアンのドゥホボール探訪記。経済的成功に感嘆しつつも, 利潤の増大と個人主義の台頭にドゥホボールの未来を危ぶむ。

61. Cottingham, M.E. The Doukhobors—an experiment in communism. In her "A history of the West Kootenay district in British Columbia." M.A. thesis in history, University of British Columbia. Vancouver, B.C. 1947. pp. 263-318.

学位論文としてはやや時論的すぎるが、ドゥホボール共産体が農業を生業母体として成功している状況が、強制、服従、絶対的独裁の装置無しに維持が可能であるかどうかを検討している。

62. Crosby, E.H. The Doukhobors in Russia and Canada. "Missionary Review of the World". London. No. 2. 1899. pp. 817-823.

63. Curtiss, J.S. Doukhobors. In his "Church and state in Russia: the last years of the Empire, 1910-1917". N. Y., Columbia. 1940. pp. 80, 139, 154-156, 163-164, 333.

教会権力と異端派との緊張関係に於いて果たす、抑圧機関としての国家の役割と政教一体化の実態を解き明かす。

64. Dafoe, J.W. The policy of Sir Clifford Sifton in encouraging the immigration of farmers, including Doukhobors, to the Canadian West. In his "Clifford Sifton in relation to his times". Toronto. Macmillan. 1931. pp. 137-144.

65. Dahrin, R. Doukhobors and peace protest. "Prometheus". Vancouver. v. 2, No. 1. 1965. pp. 17-19.

66. Davidov, A. Grandmother's great trek: an essay on Tina Lavrenchenkov's life. Castlegar, B.C. s.n. 1976. 50 p.

67. Davidson, J.T.D. Conflict in the classroom: the Doukhobors versus public school education. Surrey, B.C. author. 1972. 19 p.

宗教の他に、異なる文化と言語を持つ少数集団としてのドゥホボールが、教育社会学・教育行政学から見ると、どのような問題を生ずるかが、この論者のテーマ。そして、高校教師の体験を持つ論者は、次世代のドゥホボールが進学意欲を強く示しているところから、問題解決に楽観的な見通しを示している。

68. Davis, J. Doukhobors. In his "The Russians and Ruthenians in America: Bolsheviki or brothers?" With an introduction by

C. H. Sears. N. Y. G. H. Doran. 1922. pp. 81-82.

著者は Dartmouth College 助教授。この本の執筆当時、ロサンジェルスには50人のドゥホポールが居住するとの記述がある。

69. Davis, M. The Doukhobors. M. Davis and J. F. Krauter, In their "The other Canadians: profiles of six minorities". Toronto. Methuen. 1971. pp. 73-86.

70. Dawson, C. A. The Doukhobors. In his "Group settlement; ethnic communities in western Canada". Canadian Frontiers of Settlement, v. 7. Toronto. Macmillan. 1936. pp. 1-91.

著者は、McGill 大学の社会学教授。関心は、ドゥホポールの農業と経済問題にあり、鉄道の敷設がドゥホポールの土地所有、人口、収支等にどう影響したかに焦点を当てる。

71. Dawson, C. W. Stray religions in the far north-west: Doukhobors. "Living Age". N. Y. 1907. pp. 266-268.

サスカチュワンの Canora に新たに入植したドゥホポールを描く。新入植者達への偏見の原因にも言及。

72. Demoskov, H. & A. Hennacy. Svobodniki. In their "The one-man revolution in America". Salt Lake City, Utah. s. n. 1970. pp. 298-329.

73. Dorland, A. G. Philanthropic assistance by the Quakers to the Doukhobors during their first years in Canada. In his "A history of the Society of Friends (Quakers) in Canada". Toronto. Macmillan. 1927. pp. 256-257 and pp. 287-289.

カナダ政府が、ドゥホポール入植の初期段階で土地対策に失敗したことを追及している。

74. Doukhobors and education. "B. C. Public Service Bulletin". Victoria, B. C. v. 1, No. 1. 1925. pp. 5-8.

無署名の評論。1916—1924年間の、ドゥホポール子弟学校登録者数に関するデータを挙げ、また土地課税にも触れている。

75. Doukhobor Curriculum Committee (U.S.C.C.). Doukhobor school curriculum and programmes. Grand Forks, B.C. 1986. 426 p.

正統派ドゥホポールの組織 U.S.C.C. の子弟は、原則として地域の公教育学校に通学している。その代わりに、組織はロシア・ドゥホポールの信仰、文化、伝統を保持し伝承する為、独自の Russian school を、Fructova Heritage Centre に開設している。放課後や日曜日に、この学校はフルに機能している。

76. Doukhobor colony at Brilliant. "Fruit and Farm". Vancouver, v. 4, No. 6. 1913. pp. 202-204.

77. Doukhobor co-operators: every man must work to the best of his abilities for the good of the community, through the welfare of which he individually is benefited. "Agricultural Journal". B.C. Dept. of Agriculture. v. 9, No. 5. 1924. pp. 108-109.

78. Les Doukhobors et le gouvernement du Canada: appel à l'humanité. "Revue Blanche". Paris. t. 25. 1901. pp. 81-96.

同誌編集部編と見られる。センサスをめぐる Yorkton のドゥホポールの政府宛て嘆願書、M. Mood の勧告文、知事の拒否回答文、新天地を求めるドゥホポールの国際アピールなどを紹介。

79. Doukhobors in Canada. "Canadian Annual Review of Public Affairs". Toronto. 1932. pp. 422-425.

諸紙の関連記事を抜粋し、集録したもの。前年度の "Globe", "Regina Daily Star", "Vancouver Province", "Leader Post", "Canadian Press Despatch", "The Mail and Empire", "Manitoba Free Press" がソース。

80. Doukhobor settlers in the North West. "Canadian Annual Review of Public Affairs". Toronto. 1902. pp. 341, 364-366.

トルコのスルタンに送られた、再移住許可の嘆願書テキストが掲載されている。

81. Doukhor settlements in British Columbia. "Canadian Annual Review of Public Affairs". Toronto. 1919. p. 796.

ドゥホボル共同体の土地所有に関するデータが貴重。それに依ると、B.C. とサスカチュワンの共同体所有地は4万エーカー。評価額は200万ドル。1919年5月3日付けでヴェリーギンの公表したデータという。

82. The Doukhor story from Russia to the Castlegar district. "Castlegar Historical Review". Castlegar, B.C. v. 1, no. 1. 1952. pp. 1, 4, 12.

P.V. ヴェリーギンの死後、CCUB の財政状況は悪化した。その時に反省すべき問題として登場したのが、技能労働者の養成であった。ここでは、その問題がテーマとなっている。

83. Doukhor Youth National Executive Council (DYNEC). Doukhor participation survey 1972. Castlegar, B.C. DYNEC. 1973. 15 p.

84. Duchoborzen in Transkaukasien. "Baltische Monatsschriften". Riga. Bd. 11. 1865. S. 240-250.

85. Duchoborzen. "Westminster Review". London. v. 50. 1848. pp. 271-273.

M. Wagner の Der Kaukasus und das Land der Kosaken in den Jahre 1843-1846 を論評したもの。エカチェリノダールから、強制移動でカフカースの山中に大移動するドゥホボールの隊列。Wagner はそれを目撃した。

86. Dunn, E. Religion as an instrument of culture change: the problems of the sects in the Soviet Union. E. Dunn and S.P.

Dunn. "Slavic Review". N. Y. v. 23. 1964. pp. 459-478.

おしどり研究者による優れた共同成果。当時夫妻はカリフォルニア大バークレイ校の国際研究所のスタッフであった。ソビエト政権の初期において、レーニンらが権力を強化するため、異端派運動の合流を求めたことの、文化史的意義を指摘したもの。

87. Dunn, E. A slavophile looks at the Raskol and the sects. "Slavonic and East European Review". Menasha, Wis. v. 4. 1966. pp. 167-179.

筆者は、アメリカ合衆国で最も長くドゥホボールの研究に携わってきた第一人者。ここでは、スラヴ派のイヴァン・アクサーコフの分離派・異端派論を取りあげ、共感と反発の二面に光りを当てている。

88. Dunn, E. Russian sectarianism in new Marxist scholarship. "Slavic Review". Seattle. v. 26. 1967. pp. 128-140.

89. Dunn, E. Canadian and Soviet Doukhobors. An examination of the mechanisms of culture change. "Canadian Slavic Studies". Montreal. v. 4, no. 2. 1970. pp. 300-326.

90. Dunn, E. The importance of religion in the Soviet rural community. In "The Soviet rural community". Ed. by J. R. Millar. Urbana, Ill. Univ. of Illinois Press. 1970. pp. 346-375.

91. Dunn, E. American Molokans and Canadian Doukhobors: economic position and ethnic identity. In "Ethnicity in the Americas". Ed. by F. S. Henry. Chicago. Aldine. 1976. pp. 98-114.

ドゥホボールとモロカン派とは、文化的にも民族的にも近接しているが、モロカン派のみに専ら光りを当てた別掲論文に対し、ダンはこちらで2派の比較を試み、ドゥホボールの特徴を幾つか浮き彫りにした。モロカンは、ethnicity の保持に迫害と偏見がかえって好いとこれらを甘受するのに対し、ドゥホボールはカナダ政府の支持と承認を、固有伝統の保持に不可欠の要件と見ているとする。

92. Dunn, E. Religion and ethnicity: the case of the American Molokans. E. Dunn and S.P. Dunn. "Ethnicity". N.Y. v. 4. 1977. pp. 370-379.
93. Dunn, E. Molokans in America. E. Dunn and S.P. Dunn. "Dialectical Anthropology". Amsterdam. v. 3. 1978. pp. 349-360.
94. Dunn, S.P. The peasants of Central Russia. S.P. Dunn and E. Dunn. N.Y. Holt, Rinehart & Winston. 1967. 139 p.
95. Dunn, S.P. Sovietology old and new. "Canadian Slavic Studies". Montreal. v. 3, no. 3. 1969. pp. 565-574.
96. Elkinton, J.P. The Doukhobors in Canada up to date. "The Friend". no. 101, 9th month. 1927. pp. 163-165. no. 101, 10th month. 1927. pp. 171-172.
97. Elkinton, J.P. Correspondence and papers relating to the Doukhobors, 1955 to 1966. s.l. s.n. 100 p.
98. Elkinton, J.S. Correspondence 1899-1903 of Elkinton family relating to the Doukhobors. s.l. s.n. 1899-1903. 20 p.
99. Elkinton, J.S. Correspondence June to September 1900. Revisit to Doukhobor colonies in Saskatchewan. s.l. s.n. 1900. 97 p.
100. Elkinton, J.S. The Doukhobors: their history in Russia, their migration to Canada. Philadelphia. Ferris & Leach. 1903. 336 p.
101. Elkinton, J.S. The Doukhobors; their character and economic principles. "Charities". no. 13. 1904. pp. 252-256.
102. Elkinton, J.S. Selections from the diary and correspondence of

- J.S. Elkinton 1830-1905. Philadelphia. Printed privately. 1913. 512 p.
103. Elkinton, J.S. Doukhobor correspondence and other materials of J.S. Elkinton. s.l. s.n. 1899-1928. 61 p.
104. Elkinton, J.S. Miscellaneous materials other than Elkinton Collection in Peace Collection, Swarthmore College. Pa. s.n. 1912-1970. 70 p.
105. Elkinton, S.W. News from the Doukhobors. "The Friend". May 1930. pp. 4-5.
メキシコへの再移住の可能性を打診する為、同国を訪れたドゥホボール代表団についてのニュース。メキシコ政府は受け入れを承認したものの、結局実現しなかった。
106. England, R. The Doukhobors. In his "The Central European immigrant in Canada". Toronto. Macmillan. 1929. pp. 54-55.
107. England, R. Doukhobors. In his "The colonization of Western Canada 1896-1934". London. P.S. King. 1936. pp. 215-220.
108. Epp, D.H. Die Duchoborzen. In "Johann Cornies. Züge aus seinem Leben und Wirken". Rosthern, Sask. Steinbach. 1946. S. 112-119.
109. Epp, F.H. Mennonites in Canada, 1786-1920: the history of a separate people. Toronto. Macmillan. 1974. 480 p.
110. Evalenko, A.M. (comp.) The message of the Doukhobors; a statement of true facts by Christians of the Universal Brotherhood and by prominent champions of their cause. N.Y. International Library Publishing Co. 1913. 146 p.

111. Eyries, J.B. et Malte-Brun. Les Doukhobors. En "Nouvelles annales de voyages". Paris. Gide Fils. t. 2. 1819. pp. 300-305.

112. Fay, C.R. An impression of Western Canada. "Irish Economist". Dublin. v. 8. 1923. pp. 102-112.

113. Fetherstonhaugh, R.C. The Doukhobors. In his "Royal Canadian Mounted Police". N.Y. Carrick & Evans. 1938. pp. 151-154.

1908年当時, Yorkton におけるドゥホポールと警察の交渉・接触を回顧。アメリカ合衆国から, Adamites と称される武装集団のドゥホポールへの来援にも触れている。

114. Field, D. Rebels in the name of the Tsar. "The Russian Review". Boston. v. 39, no. 3. 1976. pp. 348-358.

115. Fisher, C.L. The real story of the Doukhobors. Unpublished manuscript at Swarthmore College. Toronto. The author. 1956. 167 p.

116. Fitzgibbon, M. A. The Canadian Doukhobor settlements: a series of letters by Lally Bernard (pseud.). Toronto. W. Briggs. 1899. 69 p.

117. Flower, B.O. The exiled Christ in Christian Russia. "Arena". Boston. v. 19. 1898. pp. 388-396.

カフカースに於けるドゥホポールへの迫害を訴えたもの。ヴェリーギンは、1896年の書簡で初めて、ドゥホポール集団を漠然と Christian Community of Universal Brotherhood と呼称したが、それが実態化するのには寧ろ1917年以降の協同組合方式の経営体としてであって、この時点で CUB (CCUB の誤称であろう) の名称でドゥホポールを論じているフラワーは、局外者としては極めて珍しい。

118. Foerster, I.J. Public policy in health and welfare in the migration of the Sons of Freedom to the Lower Mainland of

British Columbia. M. A. thesis in social work, Univ. of British Columbia. Vancouver. 1964. 48 p.

約400名の Sons of Freedom は、1962—1963年に向け Agassiz 迄大移動した。その際の、行政側による公衆衛生と福祉対策上の問題を論じたもの。

119. Ford, A. R. The Doukhobors in Canada. "Westminster". Toronto. ser. 3, v. 12. 1908. pp. 219-224.

120. Ford, A. R. Doukhobors, In "Strangers within our gates". Ed. by J. S. Woodsworth. Toronto. Stephenson. 1909. pp. 115-123.

121. Forman, J. D. Anarchism. Political innocence or social violence? N. Y. Dell Publishing Co. 1975. 144 p.

122. Foster, W. G. Canadian communists: the Doukhorbor experiment. "American Journal of Sociology". Chicago. v. 41. 1935. pp. 327-340.

nudism に対する特別立法で投獄された Sons of Freedom が全員釈放された時点で、政策的な狙いで書かれた時論。ロシアからの歴史背景に触れているものの、同化政策推進の緊急性を訴えたもの。

123. Frantz, C. The Doukhorbor Sons of Freedom: an exploratory symbolic analysis. "Anthropology Tomorrow". Chicago. v. 5, no. 2. 1957. pp. 42-86.

Warner の象徴体系に関する分析理論に刺激されて、これを Sons of Freedom に適用したもの。特に同集団の集会を秘儀として位置づけ、結束強化と通過儀礼の2アスペクトに付随するシンボルを析出している。

124. Frantz, C. The Doukhorbor political system: social structure and social organization in a sectarian society. Ph. D. thesis in anthropology, University of Chicago. Chicago. 1958. 143 p.

ドゥホポール史の研究にはロシア語文献の使用が欠かせないが、これは政治組織論と政治過程論という極めて斬新なアプローチを、ロシア語文献迄をも踏まえて果たした、水準の高い論文である。132—143ページの文献リストも貴重。

125. Frantz, C. Historical continuities in an immigrant Russian sect: Doukhor ideology and political organization. "Canadian Slavonic Papers". Toronto. v. 5. 1961. pp. 31-53.

この論文で、フランツはドゥホポールの政治システムの起源と性格を、イデオロギーと政治組織の一貫した流れの中で考察しようとする。

126. Fraternal Council and Members of the Christian Community and Brotherhood of Reformed Doukhobors. A public indictment of J. J. Verigin, secretary of the Orthodox Doukhobors for his deliberate distortion of the basic principles of the Doukhor faith. Krestova, B. C. The Council. 1954. 22 p.

127. Fraternal Council of the Union of Christian Communities and Brotherhood of Reformed Doukhobors. Doukhor problem in Canada. A prototype copy of the Hebrew people in Egypt. Krestova, B. C. FCUCCBRD. 1959. 76 p.

Council が、S. S. Sorokin の書き残した多様な筆記物、またヴェリギン、スハリョーフ、マーロフらの書いたドゥホポール史、新聞記事などから集成した資料。Sorokin と Lebedev の指導権をめぐる対立と、Sons of Freedom のカナダ脱出問題が全体を律するテーマである。この段階でも、未だウルグァイへ逃避した Sorokin への信仰は消えていない。

128. Fry, G. D. The Doukhobors 1801-1855: the origins of a successful dissident sect. Ph. D. thesis for American University in Washington, D. C. Ann Arbor, Mich. University Microfilms. 1977. 457 p.

129. Fullerton, A. The Doukhobors and their utopia. Problems of communists in Canada. "Sunset". California. v. 38. 1917. pp. 31-32, 66-68.

カナダ社会では、ドゥホポールの目指すユートピアは実現されずに、吸収・同化されるであろうと指摘する。

130. Gale, D. T. Belief and landscape of religion: the case of the Doukhobors. M. A. thesis in geography, Simon Fraser University. Burnaby, B. C. 1973. 221 p.

131. Gale, D. T. Doukhor settlements: experiments in idealism. D. T. Gale and P. M. Koroscil. "Canadian Ethnic Studies". Calgary. v. 9, No. 2. 1977. pp. 53-71.

Simon Fraser Univ. に提出した学位論文を縮約し、別の角度からやや展開したもの。所謂景観論である。信仰の象徴、居住パターン、土地保有のシステム、建築物に着目、共同体型ドゥホポールと自立型のそれに分類して、各々の特徴を摘出している。

132. Gehring, J. Die Duchoborzen. In "Die Sektzen der russischen Kirche". Leipzig. Fr. Richter. 1898. S. 56-65, 174-202.

ロシアの分離派について系統的にフォローしたもの。第2期(1655-1897)の多岐に亘る分離諸派の開花は圧巻であり、其れらの分類の中でドゥホポールはモロカン派と共に理神派・精神派と位置づけられている。ドゥホポールに就いては、1810年代迄の指導者カプースチンの叙述で終わっている。

133. Gerbel-Embach, N. K. von. Russisches Sektenwesen. In "Zeitfragen des christlichen Volkslebens". Frankfurt. Bd. 8, Nr. 4. 1883. S. 1-71.

134. Gibbon, J. M. The Doukhobors. In his "Canadian mosaic: the making of a northern nation". Toronto. McClelland & Stewart. 1938. pp. 370-379.

筆者は、カナダ・ドゥホポールが二度と帰国し得ぬような状況を故意に作りだしていると理解する。ともかくもカナダ政府は、Dominion Militia Act により、ドゥホポールの兵役を免除しているのである。ソ連では、兵役義務と徴兵制が課されている。確かにこの指摘は重要である。

135. Girgensohn, J. Das Evangelium in Russland. In "Flugschriften des evangelischen Bundes". Halle. s. n. 1901. S. 1-30.

ドゥホポールを、モロカン派や Quaker と同様「福音派」と規定し乍ら、彼等に就いては殆ど触れていない。

136. Godwin, G. The Doukhobors. "Chamber's Journal". London. series 7. v. 20. 1930. pp. 223-224.

137. Graham, S. Dukhobors. In his "Tramping with a poet in the Rockies". N. Y. D. Appleton. 1922. pp. 239-246.

この旅行記の34章が、ドゥホポール村訪問記になっている。

138. Greenwood, J. O. Quaker encounters. Volume 1: Friends and relief. York, England. William Sessions Limit. 1975. 360 p.

139. Grégoire, H. Doukhobortsés. En "Histoire des sectes religieuses". Paris. Baudoin. 1829. t. 4. pp. 153-187.

特に第 XV 章をドゥホポールの記述に当てている。彼等をロシアの Quaker と特徴づけて、その信仰を手際よく紹介している。

140. Gregory, P. M. A sociological survey of the Doukhobors. Unpublished Hons. B. A. thesis in economics, University of British Columbia. Vancouver, B. C. 1925. 97 p.

141. Greig, H. The hope and the promise: the tender, tragic and often turbulent story of the Doukhobors. Langley, B. C. Stagecoach Pub. Co. 1977. 187 p.

劇作家の書いた歴史小説第一作。Sons of Freedom がもたらした印象のもとで、ドゥホポールにこれ迄特定の偏見で接してきた筆者が、自らのドゥホポール像を正す為に書き上げたもの。やや今度は逆に思い入れの強すぎる側面もあるが、カナダの良心を代表するものと言えよう。

142. Grellet, S. A visit to the Doukhobors near Ekaterinoslav in 1819. In his "Memoirs of the life and gospel labours of Stephen Grellet". Ed. by B. Seebahn. Philadelphia. H. Longstretch. v. 1. 1864. pp. 455-457.
143. Grieson, A.I. Doukhobors of Western Canada. "Willisons Monthly". Toronto. v. 2, No. 9. 1927. pp. 352-355.
144. Gross, C.H. Doukhobors. In his "Education in British Columbia with particular consideration of the natural and social factors". Ph. D. thesis in education, Ohio State University. Columbus, Ohio. 1939. pp. 115-120.
145. Gruchy, L.E. The Doukhobors in Canada. Issued for the Board of Home Missions of the United Church of Canada. Toronto. The United Church of Canada. 1930. 64 p.
146. Guillet, E.C. The Sons of Freedom: a study of the Doukhorob problem and of the eventual disposition of the case of Fred Storgov, sentenced to three years' imprisonment for appearing nude in a public place but released by the Supreme Court of Canada. 1898-1945. In his "Famous Canadian trials". v. 36. 1946. 18 p.
147. Hahn, C.H. von. Die Sekte der Duchoboren in Transkaukasien. In "Ausland, Wochenschrift für Erd- und Völkerkunde. Stuttgart. Sigmund Günther. Bd. 66, Nr. 47. 1893. S. 737-741.

148. Hahn, C.H. von. Die Sekte der Duchoboren in Transkaukasien. In "Kaukasischen Reisen und Studien". Leipzig. Duncker & Humblot. 1896. S. 227-239.

149. Haig-Brown, R. With its face to the West. In his "Face of Canada". Toronto. Irwin. 1959. pp. 179-223.

150. Hall, E. Meeting the Doukhobors at home. "Christian Guardian". Toronto. v. 90, No. 51. 1919. pp. 17-18.

B.C.のドゥホポールを、1919年秋に訪れた筆者は、他の地域と異なり、独自の学校を発見して驚く。男児のみの学校で、12歳で修了・卒業する。

151. Harshenin, A.P. An analysis of the phonology of the Doukhor dialect. M.A. thesis in slavonic studies, University of British Columbia. Vancouver, B.C. 1960. 106 p.

Grand Forks に居住するドゥホポール達、特に『イスクラ』前編集長 P.P. Legebokov らのインフォーマントの協力で生まれた研究。標準ロシア語からの変形方言としてのドゥホポール使用言語に見られる、音韻特性を分析したもの。

152. Harshenin, A.P. The phonemes of the Doukhor dialect. "Canadian Slavonic Papers". Toronto. v. 5. 1961. pp. 62-71.

前年に提出した別掲学位論文を縮約したもの。

153. Harshenin, A.P. English loanwords in the Doukhor dialect. I & II. "Canadian Slavonic Papers". Toronto. v. 6. 1964. pp. 38-43; v. 9. 1967. pp. 216-230.

Grand Forks に居住する2組の、対面調査当時いずれも70歳代の老夫婦から採録した借用語を集成したものである。

154. Haslam, F. The Doukhobors. In his "A record of experience with Canadian Friends (Quakers) and the Canadian ecumenical

movement 1921-1967". Birmingham. Woodbrooke College. 1968. pp. 30-36, 56-57, 120-121.

筆者が同大学に招かれて行った講義録 (1967-1968)。カナダの Friends と Sons of Freedom の接触の経過をまとめたもの。

155. Hawkes, J. Doukhobors. In his "Story of Saskatchewan and its people". Chicago & Regina. S.J. Clarke. v. 2. 1920. pp. 724-729.

1899年、カナダ到着直後のドゥホポールに直面した記録。

156. Hawthorn, H. B. (ed.) Doukhor Research Committee report. H. B. Hawthorn, chairman and editor. Vancouver, B. C., University of British Columbia. 1952. 342 p.

157. Hawthorn, H. B. The Doukhobors of British Columbia. Vancouver. U. B. C. and J. M. Dent & Sons. 1955. 288 p.

カナダ・ドゥホポールの研究に欠かせない最重要文献の一つ。元来ブリティッシュ・コロンビア政府の諮問で構成された「ドゥホポール調査委員会」の報告書という性格を有している。ホーソンはその委員長である。2年間の年月をかけて調査、当時 Freedomites の強制収容で早期の答申と対策が待たれていた。7人の執筆者が歴史、経済、社会、家族、心理、宗教、行政および土地という、多面的な角度からドゥホポールを論じ、付録には重要関連データを豊富に織り込み、一種のドゥホポール百科事典となっている。

158. Hawthorn, H. B. The Doukhobors of British Columbia. The book especially reviewed by F. E. Jones. "Canadian Journal of Economics and Political Science". Toront. v. 22. 1965. pp. 253-255.

159. Hawthorn, H. B. Test of Simmel on the secret society; the Doukhobors of British Columbia. "American Journal of Sociology". Chicago. v. 62. 1956. pp. 1-7.

Abstract also in "Sociological Abstracts". N. Y. v. 6. No. 4234.

1958. p. 75.

G. ジンメル の秘密結社に関する仮説を、*Sons of Freedom* に適用し、また拡大解釈して説明を試みる。

160. Haxthausen, A. F. von. Studien über die innern Zustände, das Volksleben und insbesondere die ländlichen Einrichtungen Russlands. Hannover. s. n. 1847. Band I. 584 S.

Studies on the interior of Russia. Edited and with an introduction by S. F. Starr. Translated by E. L. M. Schmidt. Chicago. University of Chicago Press. 1972. 328 p.

ドゥホポールに関する資料を、著者のハクスタウゼンは、メノノ派の Cornies から入手している。西側では良く知られた資料である。

161. Haxthausen, A. F. von. Religious sects. In his "The Russian Empire, its people, institutions and resources". Translated by R. Farie. London. Chapman & Hall. 1856. v. 1. pp. 246-301.

162. Hayward, V. Doukhobors—a community race in Canada. "Canadian Magazine". Toronto. v. 51. 1918. pp. 457-468.

163. Hayward, V. Doukhobors—a community race in Canada. In her "Romantic Canada". Toronto. Macmillan. 1922. pp. 225-235.

164. Heard, A. F. The Doukhobortsi and the Molokani. In his "The Russian church and Russian dissent." N. Y. Harper. 1887. pp. 273-281.

ロシアの分離派一般が本質的には反動であるに対して、ドゥホポールとモロカン派が理神論的なのは、西欧のプロテスタンティズムに由来すると指摘。

165. Henderson, E. Biblical researches and travels in Russia: including a tour in the Crimea and the passage of the Caucasus. London. J. Nisbet. 1826. pp. 384-385.

筆者の訪問したドゥホボール村は、マローチナヤ河畔に位置する。1818年のその数を、8ヶ村合して1153名と同定する。

166. Henderson, D.C. News from the Doukhobors. "The Friend". Philadelphia. v.104. 7th month. 1930. pp.4-5.

More about the Doukhobors. "The Friend". Philadelphia. v.104. 8th month. 1930. pp.87-89.

The Doukhobors. "The Friend". Philadelphia. v.104. 5th month. 1931. pp. 542-543.

筆者は Quaker。ドゥホボールの3派をいずれも訪問、それぞれのグループの、指導者に対する態度を理解しない限り、問題の理解はあり得ないとする。

167. Henderson, D.C. A study of the Doukhobors of western Canada. s.l. s.n. Original in Swarthmore College. 1933. 211 p.

168. Hennacy, A. & H. Demoskov. Svobodniki. In their "The one-man revolution in America". Salt Lake City, Utah. s.n. 1970. Chapter 17. pp. 298-329.

169. Herbison, H. Doukhobor religion. In "Canadian society". Ed. by B.R. Blishen, F.E. Jones, K.D. Naegele & J.Porter. Toronto. The Macmillan Co. 1961. pp. 427-451.

H.B. Hawthorn 編 "The Doukhobors of British Columbia" に所載された論文をそのまま転載したもの。筆者は, Wider Quaker Fellowship のメンバーとして諮問委員会に加わった人物。調査と観察、所見は殆ど Sons of Freedom に偏している。ドゥホボール主義を、集団的神秘主義、徹底主義のイデオロギー、教会・国家の内在化に要約する。

170. Hindus, M.G. Bookless philosophers. "Century". N.Y. v.105. 1923. pp.423-430.

前年に Brilliant (B.C.) と Kylemore (Sask.) のドゥホボールを

訪問した際の印象記。その共同体の発展ぶりを高く評価しているものの、現代文明との避けられない接触の過程で、ドゥホポール共同体の崩壊を悲観的に予測している。筆者はロシア生まれのロシア史家。

171. Hindus, M.G. As in the days of Adam: a visit to the Doukhobors of western Canada. "Century". N. Y. v. 111. 1925. pp. 208-216.

ここでは、Hindus はもっぱら nudism を展開する Freedomites に焦点を当てている。Thrums を訪問して接したスヴァボードニキの素朴と誠意に筆者は強く打たれている。

172. Hindus, M.G. Freedomites who burn money and eat raw food. "Literary Digest". N. Y. v. 88. 1926. pp. 60-67.

173. Hirabayashi, G.K. The Russian Doukhobors of British Columbia: a study of social adjustment and conflict. Ph.D. thesis in sociology, University of Washington. Seattle, Washington. 1951. 135p.

ドゥホポール問題を、異なる価値社会間のあつれきとして考察する。原始的な宗派がその信条を、機械化農法を推進する産業国家に持ち込もうとした点に、問題発生の根因があるとする。

174. Holitscher, A. Die Duchoborzen und Peter Verigin. In "Amerika heute und morgen". Berlin. s. n. 1912. S. 174-188.

ドゥホポールをコムニストと捉え、当時カナダに在住する8000名のドゥホポールのうち、6000はコムニストと断定する。

175. Holm, C.G. A social history of the Doukhobors in the Grand Forks district. Student paper in history, Selkirk College(?). Castlegar, B.C. 1968. 32p.

論文執筆当時3000人に及ぶドゥホポールが居住する Grand Forks を対象に、これ迄の人口動態の歴史を踏まえ、1963年以降他住民との共存共栄が成立するに及んで、ドゥホポール人口の漸増傾向を跡づけて将来の一層の増加を予測している。

176. Holt, S. War in the Kootenays. "Canada Month". Montreal. (forerunner issue). July 1, 1961. pp. 25-32.
Protest by fire. "Canada Month". Montreal. September 1962. pp. 20-21.
Death of a Doukhobor. "Canada Month". Montreal. October 1963. pp. 26-28.
How death took the Freedomite leader. "Canada Month". Montreal. October 1964. p. 9.
177. Holt, S. Terror in the name of God. "Weekend Magazine". Toronto. v. 14, no. 52. 1964. pp. 3-4, 22.
From Russia to Canada with hate. "Weekend Magazine". Toronto. v. 15, no. 1. 1965. p. 6.
The Doukhobors' high-living leaders. "Weekend Magazine". Toronto. v. 15, no. 2. 1965. pp. 10-13.
Autobiography of a fanatic. "Weekend Magazine". Toronto. v. 15, no. 3. 1965. pp. 10-12.
178. Holt, S. Terror in the name of God: the story of the Sons of Freedom Doukhobors. Toronto. McClelland & Stewart. 1964. 312p.
このセンセーショナルな本が刊行されるや、カナダ言論界は賛否両論で賑わった。執筆者の立場は、ドゥホポール = Sons of Freedom, Sons of Freedom = 反社会的破壊主義者, 反社会的破壊主義者 = 否定される可き悪という、まことに明解な図式であった。Woodcock の労作は本書を批判する目的で著わされた。書評は多数にのぼるが、ここではいずれも省略する。
179. Hoodikov, P. The economy of the Doukhobors. Castlegar, B. C. s. n. 1968. 36p.
Selkirk College に提出された論文。
180. Hooper, R. H. C. Custodial care of Doukhobor children in British

Columbia, 1929 to 1935. M. A. thesis in social work, University of British Columbia. Vancouver, B. C. 1947. 113p.

181. Horkov, F. Hunting for seneca root. "Inquirer". Saskatoon. v. 3, no. 2. 1956. pp. 12-14.

サスカチュワンの老ドゥホポール回想記。かつて去たん剤として利用された薬草セネガ根。これを採集する為プレーリーを探し回った話である。彼等は、初期の時代、セネガ根を売って生計の足しにした。

182. Horvath, M. (comp.) A Doukhobor bibliography, based on material collected in the University of British Columbia Library.

Part I: books and periodical articles. Enlarged revised edition of "Reference publication no. 22" (1968) and "Supplement" (1970). Vancouver, B. C. U. B. C. Library. 1972. 663 items, index.

Part II: government publications. Vancouver, B. C. U. B. C. Library. 1973. 50p., index.

U. B. C. 付属図書館所蔵のみとは言え、ここのドゥホポール・コレクションは世界一を誇る。解説を要さない、貴重なドゥホポール文献目録である。

183. Hourwich, I. A. Religious sects in Russia. In "Case of Russia". Ed. by A. Rambaud et al. N. Y. Fox Duffield & Co. 1905. pp. 341-387.

帝政ロシアの基本法に見られる宗教的寛容を分析、また1903年2月26日の、異端派に対する寛容令を検討する。

184. H. R. A. H. The Doukhobors. Canada's intractable minority. "World Today". London. v. 9. 1953. pp. 529-536.

出版されたばかりの Hawthorn 報告, Maude, Wright の3著に依拠して、ドゥホポールの過去と現在を綴っている。ジャーナリズムや時論の多くがそうだが、Freedomites とドゥホポール一般が無原則に混同されてしまっているケースが目立つ。

185. "Inquirer". Ed. by K. J. Tarasov. Saskatoon, Saskatchewan. Union of Young Doukhobors. v.1-5. 1954-1958. Title varies Feb.-Oct. 1954 "The Doukhobor Inquirer".

若手のドゥホポール知識人タラーソフによって創刊された雑誌。1958年に廃刊となった。

186. Inquirer (ed.). Union of Doukhobors of Canada. Tenth anniversary. Saskatoon, Sask. "The Inquirer". 1955. 6p.

187. International Doukhobor Intergroup Symposium Planning Committee. International Doukhobor Intergroup Symposium: program. preliminary program and registration form of the symposium by Doukhobors, Molokans, Mennonites and Quakers. Castlegar, B. C. June 25-28, 1982. Castlegar, B. C. 1982. 36p.

188. International Doukhobor Intergroup Symposium 1982. Symposium proceedings at Castlegar, B. C. June 25-28, 1982. Grand Forks, B. C. Symposium Planning Committee. 1983. 120p.

189. Ishwaran, K. (ed.). Doukhobors' rites and celemonies. In "Canadian families: ethnic variations". Toronto. McGraw-Hill Ryerson. 1980. pp.181-197.

ドゥホポールの家族と儀式について、F. M. Mealing が担当・執筆している。

190. Ismail-Zade, D. Russian settlements in the Transcaucasus from the 1830s to the 1880s. "Soviet Sociology". N. Y. v.16. 1977. pp. 51-77.

191. Jamieson, S. M. The Doukhobors of B. C. "Canadian Forum". Toronto. v.31. 1951. pp.7-8.

筆者は、U. B. C. のドゥホポール調査委員会のメンバー。3派の経済状況を論じている。

192. Jessup, E. A utopia that works: the Doukhobor settlement in British Columbia—a successful experiment in religious communism. A fragment of old Russia. "Travel". N. Y. v. 40. 1922. pp. 37-39, 52.

農業生産物を共有する，ドゥホボールの農業コロニーを写真入りで紹介する。

193. Jilek-Aall, L. Sex role, culture and psychopathology: comparative study of three ethnic groups in western Canada. L. Jilek—Aall, W. Jilek and F. Flynn. "Journal of Psychological Anthropology". N. Y. v. 1, no. 4. 1978. pp. 473-488.

ドゥホボールの精神衛生上の問題を取りあげている。

194. Johnson, F. H. The Doukhobors of British Columbia. The history of a sectarian problem in education. "Queen's Quarterly". Kingston, Ont. v. 70, no. 4. 1964. pp. 528-541.

公的義務教育のシステムは，少数社会集団の同化問題と常に切り離せない。ここでは，カナダ公教育とドゥホポールとの関係史を再検討することによって，政策提言を試みようとする。

195. Joseph, J. The Doukhobors: Canada's violent pacifists. "Coronet". Chicago. v. 4. 1959. pp. 36-40.

Sons of Freedom は，クレムリンによって仕掛られた，イデオロギー的時限爆弾だと極論する。

196. Jubilee Committee. Jubilee program celebrating the fiftieth anniversary of Doukhobors in Canada, 1864-1949. July 31, August 1, 1949. Grand Forks, B. C. s. n. 1993. 34p.

197. Kabatov, V. Local Doukhobor landmarks. V. Kabatov and E. Kanigan. Paper prepared for "Anthropology 100", Selkirk College. Castlegar. B. C. Selkirk College. 1978. 62pp.

所謂景観論である。建築構造物の写真を多載。

198. Karpov, T. M. Literary and ideological heritage of Peter Vasil'evich Verigin. M. A. thesis in slavonic studies, University of British Columbia. Vancouver, B. C. 1973. 186p.

タイトルは英文だが、内容はロシア語で執筆されている。80歳で執筆した学位論文である。執筆者については、別掲を参照。

199. Karpov, T. M. Literary and ideological heritage of Peter Vasil'evich Verigin. With the introduction by R. M. Booth. Vancouver (?). s. n. 1976. 150p.

著者は、執筆当時83歳の老人。純粹のドゥホポールではないが、第一次世界大戦時に平和主義としてロシアよりカナダへ亡命、後4大学で学位を取得し、1930年には統一教会派の牧師となり、Sons of Freedom問題で緊迫した1960年代には、ドゥホポールとカナダ社会の橋渡し役となった人物であり、このヴェリーギン紹介もアングロ系住民を対象に執筆されている。ここでヴェリーギン像構成上中心的な手がかりとなっているのは、16年間に及ぶシベリア流刑中に書いた書簡であり、ボンチ=ブルーエヴィチ編のものから多くを採っている。

200. Kennedy, H. A. Doukhor life. In his "New Canada and the new Canadians". London. H. Marshall. 1907. pp.149-153.

サスカチュワンのドゥホポールが同情的に描かれている。

201. Kettle, J. Religious furies. Doukhor conspiracy hearing 1962. J. Kettle and D. Walker. In their "Verdict! Eleven revealing Canadian trials". Toronto. McGraw-Hill. 1968. pp.67-109.

1962年3月、Kootenay で発生した放火計画事件に就いて記載している。結局この時の事件は、証拠不十分で不起訴となった。

202. Kettle, J. & D. Walker. Verdict! eleven revealing Canadian trials. Toronto, McGraw-Hill Co. 1968. 289 p.

203. Kilbourn, W. There were the Doukhobors. In his "The making of the nation: a century of challenge". Toronto. The Canadian Centennial Library. 1965. p.41, p.121.

204. Klibanov, A.I. The dissident denominations in the past and today. "Soviet Sociology". N.Y. v.3, no.4. 1965. pp. 44-60.
205. Klibanov, A.I. Fifty years of scientific study of religious sectarianism. "Soviet Sociology". N.Y. v.8, no.3-4. 1970. pp. 239-278.
206. Klibanov, A.I. Sectarianism and the socialist reconstruction of the countryside. "Soviet Sociology". N.Y. v.8, no. 3-4. 1970. pp. 383-411.
207. Klibanov, A.I. In the world of religious sectarianism: at a meeting of Prygun Molokans. "Soviet Sociology". N.Y. v.13, no. 3. 1974-75. pp.80-93.
208. Klymasz, R.B. V.D. Bonch-Bruevich and the Lenin connection in new world folkloristics. "Journal of the American Folklore Society". N.Y. v.93. 1980. pp.317-324.
209. Kolarz, W. Dukhobors. In his "Religion in the Soviet Union". London. Macmillan & Co. 1961. pp.288, 346, 347, 349, 353-356.
Sons of Freedom の代表4名が1958年に訪ソし、帰国交渉を行ったが帰国は実現しなかった。筆者はその事に触れている。
210. Kolesnikov, J.D. Ivan Sysoev, a Doukhobor poet. J.D. Kolesnikov and Nina Kolesnikov. "Canadian Ethnic Studies". Calgary. v.12, no.1. 1980. pp.93-102.
211. Kolesnikov, N. Contemporary Doukhobor poetry. "Canadian Ethnic Studies". Calgary. v.14, no.1. 1982. pp.62-73.
212. Kootin, M.J. Mission and message of Doukhobors. "Peacemaker". Cincinnati, Ohio. v.12, no.6. 1959. pp.2-3.
筆者は、Brilliant 在住のドゥホポール。ドゥホポールの平和運動に

において果たす可き、使命を強調している。

213. Krasinski, V. Les Doukhobors. En "Essai sur l'histoire religieuse des nations slaves". Paris. Garnier. 1853. pp. 358-391, 404-405, 453-459.

Haxthausen に大幅に依拠している。

214. Kravchinsky, S. M. The Doukhoborzy and Molokane. In his "The Russian peasantry: their agrarian condition, social life and religion". Stepniak (pseud). London. Swan Sonnenschein. 1888. pp. 505-549. 2nd ed., 1890. Also London. G. Routledge & Sons. 1905. N. Y. E. P. Dutton. 1905.

筆者はクロポトキンとも親しかった、ロシアの亡命革命家であり、本邦でもその著作が幾つか翻訳されている。ロシアの農民に真の民主主義の発露を見たこのナロードニクは、ドゥホボールの理神論的共同世界に、深い共感を示している。

215. Kropotkin, P. A. Some of the resources of Canada. "Nineteenth Century". London. v. 43. 1898. pp. 494-514.

ロシアの気候風土に酷似することを、クロポトキンはこのカナダ紀行で再三再四強調した。それが契機となって、ドゥホボールのカナダへの移住が現実化したと言っても、過言ではない。

216. Laflamme, J. C. K. L'Église orthodoxe russe: organisation, dogmes, hérésies (Doukhobortsés et Molokanes). Deux conférences données par J. C. K. Laflamme, à l'Université Laval. Québec, 1900-1901. Québec. L.-J. Demers. 1901. 65p.

ドゥホボールの教えの歴史的な出発点を探る試み。その理神論的性格は、ドイツのプロテスタントイズムに発するとする。

217. Lakes, A. J. Canada and the Doukhobors: a conflict of values. Student paper in sociology, Selkirk College (?). Castlegar, B. C. 1971. 17p.

ドゥホポール集団とカナダ政府との対立史を、従属集団と支配集団間の価値の相克という図式で捉える。そしてこの時点で、総べてのドゥホポールのカナダ社会への同化過程は、最終的に終了したとする。

218. Laliberté, F.R. Deux maitres, un praticien: essai sur les origines idéologique des Doukhobors du Canada. Thèse (M. A.). Université de Montréal. Montréal. 1962. 145p.

ドゥホポール主義のイデオロギー的源泉として、この研究論文は改革者トルストイ、アナーキスト・ルソー、実践者ヴェリーギンの3人をあげている。最大の特徴として、議論はあるものの、ルソーをアナーキストと規定し、そのドゥホポールへの影響を指摘している点である。ただしルソーの側からの視点のみで、論証は極めて不十分であり、それはドゥホポール文献を僅か4点しか用いていない所にも表われている。

219. Lebidov, F.E. The truth about the Doukhobors. Trail. Hall Printing Co. 1948. 27p.

220. Legebokov, P.P. A discussion with P.P. Legebokov. "Mir". Grand Forks, B.C. v. 1, no. 3-4. 1973. pp. 3-5, 25-27.

ドゥホポールの雑誌 "Iskra" の編集に永年関係してきた人物の、回顧談。

221. Leigh, A. Can the Doukhorbor problem be solved? "Canadian Welfare". Ottawa. v. 26. 1950. pp. 2-8.

筆者は、B.C. 厚生局福祉課のスタッフ。

222. Leroy-Beaulieu, A. Le Raskol et les sectes. "Revue des deux mondes". Paris. t. 45, part. 3. 1875. pp. 38-79, 586-631.

223. Leroy-Beaulieu, A. L'Histoire des deux sectes jumelles: les Doukhobortsés et les Molokanes. En "L'Empire des Tsars et les russes". Paris, Hachette. 1889-1890. t. 3. pp. 496-510.

The Molokans and Doukhobortsí. In his "The empire of the

Tsars and the Russians". Trans. from the 3rd French edition. N. Y. Putnam. 1893-1896. v. 3. pp. 439-451.

224. Lewis, C. L. Doukhobor childhood and family life. In "Canadian society". Ed. by B. R. Blishen, F. E. Jones, K. D. Naegele & J. Porter. Toronto. The Macmillan Co. 1961. pp. 193-209.

H. B. Hawthorn 編の "The Doukhobors of British Columbia" に所載した論文を、リライトして縮約したもの。ドゥホボール子弟の養育基準は権威主義のそれに準ずるものの、子供の潜在的可能性には大きな注意が払われ、尊重されるとする。寛容、威厳、粘り強さ、親愛を、ドゥホボールの家庭教育における規準的価値と結論している。対面調査による報告。

225. Lumsden, J. Fanatics. In his "Through Canada in harvest time: a study of life and labour in the golden West". London. Unwin. 1903. pp. 156-157.

1902年の巡礼行進を批判。ドゥホボールのうち、狂信派は僅か10%に過ぎず、あとの大半は程無く同化すると見通す。

226. Lynch, H. F. B. Gorelovka and Queen Lukeria. In his "Armenia. Travels and studies". London. Longmans, Green & Co. 1901. pp. 96-117, 118-119, 410-413, 452-457.

1898年のドゥホボール村訪問記。場所はアハルカラキである。

227. Lyons, J. E. A history of Doukhobor schooling in Saskatchewan and British Columbia, 1899-1939. M. A. thesis in education, University of Calgary. Calgary, Alberta. Published by National Library of Canada in Ottawa. 1973. 206p.

228. Macdonald, N. Doukhobors. In his "Canada: immigration and colonization 1841-1903". Toronto. Macmillan. 1966. pp. 228-234.

229. Maclean, J. Among the Doukhobors. In his "McDougall of

Alberta: a life of Rev. J. McDougall, D. D., pathfinder of empire and profit of the plains". Toronto. Ryerson Press. 1927. pp.235-240.

McDougall はメソジスト派の宣教師で、一時ドゥホボール問題に携わる政府側委員であった。

230. Malakov, M. Now we are asking why?: letter from prison. M. Malakov and M. Astoforov and A. Kootnekov. New Westminster, B.C. Oakalla Collection Centre. 1975. 14p.

231. Malov, M. Toil and peaceful life: portraits of Doukhobors. Compiled and translated by M. Malov and P. Oglov. Victoria, B.C. Aural History, Provincial Archives of British Columbia. 1977. 78p.

232. Malov, P.N. Doukhobors and Canada: third independent report on Doukhorbor problem. Thrums, B.C. s.n. 1953. 15p.

マーロフは穏健派であり、Sons of Freedom には批判的であるが、土地の共有には賛成し、分離に依る学校教育を主張する。また、強制力によって子弟を両親から引き離そうとする行政の介入に反対している。

233. Malov, P.N. An open letter addressed to all concerned the Doukhorbor problem. Trail, B.C. 1953. 8p.

234. Malov, P.N. In quest of a solution: three reports on Doukhorbor problem. 2nd ed. s. 1. s. n. 1957. 40p.

元来1949年に発足した政府当局に依るドゥホボール問題処理委員会 (Commission) に提出した報告書。1950年に書いた第一報告がそれに該当し、1953年の『ドゥホボール問題に関心を持つ人々への公開状』が第二報告を構成、更に加えた『ドゥホボールとカナダ』が第三部に該当する。事実だけをとにかく在りのままに伝えようとする姿勢で一貫している。

235. Malov, P.N. Canada and Doukhobors: an independent report. no. 4. Thrums, B.C. s. n. 1958. 2p.

ドゥホポール問題の唯一にして真の解決は、友好的に話し合うことであると、強調する。

236. Mann, W.E. The Doukhobors of Alberta. In his "Sect, cult and church in Alberta". Toronto. Univ. of Toronto Press. 1955. pp. 18-19.

極めて短かいドゥホポールについてのコメントだが、Alberta のドゥホポールについてはデータが乏しい故、掲出した。1931年段階で786人、その後20年間に822人に増加、と同州のドゥホポールの実数を挙げていることは、注目してよい。

237. Mansbridge, J. Information...on the current condition of the Doukhobors. Castlegar, B. C. Selkirk College. 1968. 3p.

アップ・ツー・デイトな数字資料が貴重である。

238. Markova, A.P. Peter P. Verigin: biographical highlights of his years in Russia. An account by his daughter A.P. Markova. "Mir". Grand Forks, B.C. no. 15. 1977. pp.15-27, 60-61.

239. Markova, A.P. Passing of a Doukhobor martyr: an interview with A.P. Markova. "Mir". Grand Forks, B.C. no. 17. 1979. pp. 3-27.

240. Maude, A. The Doukhobors. "Outlook". N.Y. v. 60. 1898. pp. 913-915.

241. Maude, A. Doukhobors: a Russian exodus. In his "Tolstoi and his problems". London. G. Richards. 1901. pp. 262-326.

Maude (1858-1938) はもともとモスクワでカーペット会社を営んでいた実業家だが、トルストイに心酔してその翻訳・紹介に意を尽くし、イギリス帰国後は Quaker 達と共にドゥホポールのカナダ移住実

現に奔走、のち Sons of Freedom を批判して支援活動から去った。この時点で既に筆者は、トルストイの “Christian martyrdom in Russia” が一面的であったと指摘する。権力と対抗している時には見えていない、ドゥホボールに存するある種の反文明主義と obscurantism に、イギリスのクェーカー教徒は賛成できなかったのである。

242. Maude, A. A peculiar people: the Doukhobors. N. Y. Funk & Wagnalls Co. 1904. 338 p.

A peculiar people: the Doukhobors. London. A. Constable. 1905. 338 p.

A peculiar people: the Doukhobors. N. Y. AMS Press. 1970. 338 p.

アングロ系社会で、ドゥホボールに関しこれ程読まれた書物は他にありません。本邦唯一のドゥホボール研究書、木村毅著『ドゥホボール教徒の話』も、本書の存在無くしては成立しなかった。以後ドゥホボールを評するのに、peculiar という形容詞がどれ程冠されてきたか枚挙に暇が無い。しかし、内容と立場はどうあれ、ドゥホボールに最も近いと判断される立場から彼等に深く関わったこの人物のこの文献は、研究上必須である。他方では、時間とそれに伴う状況の変化が、歴史的価値を除いて、本書を陳腐化し価値を奪ってしまったことも否定し得ない。

243. Maude, A. The life of Tolstoi. Toronto. Oxford U. P. 1953. First published in 1908-1910. v. 1. 490 p. v. 2. 570 p.

244. Maude, A. The life of Tolstoi—later years. London. Constable & Co. 1910. 2nd ed. 1911. 599 p.

245. Maude, A. The Doukhobors. In his “Leo Tolstoi”. N. Y. Dodd. 1918. pp. 184-186, 202-205, 258-267, 273-274. And chapters XIV and XV.

第14章は、全面的にドゥホボールに当てられている。モードのドゥホボール観は、彼等のカナダ移住後大きく変化した。ここでも、トルストイの怪信を残念であるとし、またチェルトコフを批判し、彼の影響でカナダのドゥホボールはアナキストに変貌したとして慨嘆する。

246. Mavor, F.W.M. James Mavor. The Doukhobor papers. Unpublished paper OISE course. Department of History and Philosophy. Toronto. 1981. 44 p.

247. Mavor, J.E. Doukhobor claims for compensation. Documents from the papers of J.E. Mavor. "Canadian Slavonic Papers". Toronto. v. 1. 1956. pp. 1-15.

トロント大学の Mavor 文庫が所蔵する未公開文献。1907年、カナダ政府によって没収された土地の償還をドゥホボールが求めたもの。

248. Mavor, J. The Doukhobors. In his "My windows on the streets of the world". London and Toronto. J.M. Dent & Sons. 1923. v. 2. pp. 1-37.

Mavor 教授の長大な旅行記に収められたドゥホボール論。移住実現に、クロボトキンと共に尽力した著者も、知識人として、ドゥホボールの単純主義にはやや懐疑的である。

249. Mawer, R.J. Some Doukhobor history. "British Columbia Historical Quarterly". Victoria, B.C. v. 16. 1962. pp. 214-215.

歴史協会ヴァンクーヴァー支部における、1952年10月28日付け講演の記録。

250. McGauley, K.B. A gift in passing. Hollywood, Calif. Innisfree Pub. Co. 1984. 284 p.

ドゥホボール出身の McGauley 家の家族記録。

251. Mealing, F.M. Doukhobor choral music. Paper for graduate course, Univ. of Pennsylvania. Philadelphia, Pa. 1969. 48 p.

252. Mealing, F.M. Our people's way: a study in Doukhobor hymnology and folklore. Ph. D. thesis in folklore studies, Univ. of Pennsylvania. Philadelphia, Pa. 1972. 789 p.

253. Mealing, F.M. A Doukhobor discography. Selkirk College. Castlegar, B.C. F.M. Mealing. 1973. 13 p.

ドゥホボール最大居住区の一つ、Castlegarにあるカレッジで文化人類学を講ずる筆者は、同時に詩人であり、またドゥホボール研究に関しても多彩である。これは、ドゥホボール歌唱を収めたレコード目録である。類似レコードは内外の機関により1940年代頃からプレスされているが、旧盤は殆ど姿を消し、ここでも1960年代以降のSP盤の目録である。

254. Mealing, F.M. Doukhobor life: a survey of Doukhobor religion, history and folklife. Kootenay Doukhobor Historical Society. Castlegar, B.C. Cottinneh Books. 1975. 67 p.

255. Mealing, F.M. Leaders, needles, prayers, ghosts and cognac: a folklorist approaches oral history. Castlegar, Selkirk College. 1977. 2 p.

256. Mealing, F.M. The Doukhobors enter Saskatchewan 1899-1907. Castlegar, B.C. The author. 1979. 12 p.

カナダ・フォークロア研究協会に提出したペーパー。カナダへの移住、サスカチュワンからの更なる移動の原因を論じたもの。ただし、論述そのものより、ウェートはドゥホボールの慣習や民俗的側面に置かれている。

257. Mealing, F.M. Doukhobor marriage in Canada: forms and issues. Castlegar, B.C. The author. 1980. 10 p.

258. Meyer, J.M. Three letters by Tolstoi. "International Institute of Social History Bulletin". Amsterdam. v. 6. 1951. pp. 32-38.

別掲スレルジツキーに宛てた書簡。内容は、当然ドゥホボールの移住問題に関連している。

259. Miliukov, P.N. Les Doukhobors ou Doukhobori. En "La crise russe". Paris. Librairie Universelle. 1907. pp. 83-90.

260. Miliukov, P.N. The Doukhobors. In his "Outlines of Russian culture". Part I: religion and the church. N.Y. A.S. Barnes & Co. 1942. new ed. 1960. pp. 93-121.

Also in "Outlines of Russian culture". Philadelphia. Univ. of Pennsylvania Press. 1942. v. 1. pp. 77-121.

ミリュコフがそもそも『ロシア文化史概論』全3巻を書き著わしたのは1896—1903年であり、その史観と解釈は広く影響を及ぼした。例えば、ドゥホボールと鞭身派との繋がりやの指摘は、別掲セヴェラックにも引き継がれている。キリスト教的アナキズムという特徴づけも、彼のものである。ただし、単なる理神論も乗り越えるこの特徴づけは、今日でもなお有効である。

261. Minden, R. Separate from the world. Vancouver. The National Film Board of Canada. 1979. 68 p.

英語、ロシア語、フランス語でつづられた、豊富な写真を散りばめた紹介書。

262. Minnaert, C. The publicity on the Doukhobors, 1898-1950: how it reflected their problems of social adjustment in Canada. Castlegar, B.C. The author. 1970. 47 p.

263. "Mir". A Doukhor youth publication. v. 1.- Jan. 1973-. Vancouver, B.C. Union of Young Doukhobors. Monthly (except July & August).

別掲のタラーソフが学生時代に "Inquirer" を発刊したと同じく、正統派ドゥホボールの若手ホープである J. Popov が UBC 時代に発刊し始めた青年向けの雑誌。当初ヴァンクーヴァーで出され、後 Grand Forks に編集局が移された。財政難の為、続刊が危ぶまれている。

264. Montagnes, J. Doukhobors in Canada. "Nation". London. v. 131. 1930. pp. 374-375.

Sons of Freedom の度を越えた反社会的行為の起源は、1901年イヴァン・ポノマリョフが家畜使用は悪とした考え方に発すると指摘する。

265. Moore, V. Angelo Branca, gladiator of the Courts. Vancouver. Douglas & McIntire. 1981. 254 p.

1950年代初頭の、Sons of Freedom 裁判に1章を当てている。

266. Mortimer, M. Political strip-tease and spirit wrestlers. "Contemporary Review". London. v. 213. 1968. pp. 325-326.

267. Mundy, W.B. The Sons of Freedom at hope: a study of the interaction of a settled community and a migrant community. M. A. thesis in social work, Univ. of British Columbia. Vancouver. 1964. 41p. Also published with the papers by D. L. Comme-ree and I. J. Foerster.

この論文は、集団間の社会的あつれきの例として、Sons of Freedom の移動を扱っている。British Columbia 内陸部から、Lower Mainland への移動を考察例としている。

268. Murphy, E. G. With the Doukhobors. In her "Janey Canuck in the West". 3rd ed. London. Cassell. 1910. pp. 50-74.

著者は、ドゥホポールが20%の狂信派を除けば、立派な市民となり得ると述べている。

269. Newell, C. M. A structural analysis of sobranija: Doukhobor and Russian Orthodox. C. M. Newell and T. Popov. M. A. thesis in anthropology and sociology, Univ. of British Columbia. Vancouver, B. C. 1971. 209 p.

斬新な着想のドゥホポール研究である。彼等にとってサブラーニエ(集会)は単なる宗教儀礼に止まらず、複合性を帯びた多目的型である。著者等は、それを幾つかに解体・分類しようと試みている。

270. Newell, C. M. Folk taxonomy of Doukhobor gatherings: the problem of sobranija. C. M. Newell and T. Popov. In "Linguistic diversity in Canadian society". Ed. by Regna Darnell. Edmonton, Alberta. Linguistic Research. 1971. 295p.

前出別掲の学位論文を縮約したもの。

271. "New Order". Formerly the Croydon Brotherhood Intelligencer. London. The New Order Office. 1895-. v.1-7.

本誌は因習にとらわれぬ自由な雑誌として、信仰と人間の善意を一体とすべく努め、日常のテーマを新しい視角で論じ、とりわけ新社会建設のための国際運動に大きな注意を払った。ドゥホポールに関する記事はかなりの多数にのぼる。その主要なものを以下に掲げる。

1895. Kenworthy, J.C. English opinion and Russian persecutions. v.1, no.12. pp.1-3.
1897. Chertkov, V. Brother in need. v.3, no.4. p.26.
1897. Persecution by governments. v.3, no.9. p.68.
1898. John, A. Expelled. v.4, no.4. p.43.
1898. Archer, A.P. A visit to the Doukhobortsi. v.4, no.5. pp.49-50.
1898. Archer, A.P. The Doukhobortsi. v.4, no.7. p.74.
1898. Chertkov, V. Words to vegetarians. v.4, no.11. pp.117-119.
1899. Doukhobortsi fund. v.4, no.10. p.116; no.11. p.127.
1899. Doukhobortsi fund. v.5, no.1. p.161.
1899. John, A. An inconvenient visit to the Caucasus. v.5, no.12. pp.1-3.
1899. Aylmer Maude's recent visit to America. v.5, no.13. pp.21-22.
1899. The Doukhobors who have been wintering in Cyprus, etc. v.5, no.16. p.76.
1899. Archer, H.P. The Doukhobors in Canada. v.5, no.19. pp.114-115.; v.5, no.22. pp.160-161.
1899. Ortt, F. New Brotherhood colony in Holland. v.5, no.22. p.171.
1900. The Doukhobors in Canada. v.6, no.26. p.60.
1900. John, A. Still inconvenient. v.6, no.31. pp.141-147.
1901. Crosby, E.H. Among thr Doukhobors in Canada. v.7, no.35. pp.1-2.
1901. Ferris, T.H. Christian martyrdom in Canada. v.7, no.38.

p. 45; no. 40. p. 73.

1901. An address to all nations from Doukhobors in Canada. v. 7, no. 41. pp. 81-83, 84-85, 86-88.

1901. Maude, A. Dear brethren Doukhobors. v. 7, no. 41. p. 83.

272. Novokshonov, V. et al. Doukhobors in the Boundary. V. Novokshonov, L. Reibin, M. Obedkov, J. J. Verigin. "Boundary Historical Society Report". Grand Forks, B.C. no. 3. 1960. pp. 38-43; no. 4. 1961. pp. 27-31.

Grand Forks のドゥホポール生活の、多岐に亘る分野の聞き書きに依る記録集成。

273. Nutall, G.C. A modern exodus. "Good Words". London. v. 42. 1901. pp. 402-406.

ドゥホポールのカナダ移住に果たした、内相シフトンにスポットを当てている。

274. Odlum, H. The Canadian Doukhobor. "British Columbia Digest". Vancouver. v. 3, no. 4. 1948. pp. 3-13.

275. Oliver, E.H. The settlement of Saskatchewan to 1914. In "Royal Society of Canada. Proceedings and transactions". Ottawa. 3rd series. v. 20, section II. 1926. pp. 63-87.

276. Oliver, E.H. Peter Verigin. "Royal Society of Canada". Ottawa. Proceedings and transaction. 3rd series v. 26. section 2. 1932. pp. 97-123.

Saskatoon の St. Andrew's College に属し、経済学者であり、歴史家であるオリヴァーによるヴェリーギン論。1924年に謎の爆死を遂げて以来、このドゥホポール指導者に対する伝説化、神格化が進行する中で行われた科学的再検討。主として、Aylmer Maude に依拠している。

277. O'Neal, H. Doukhobor daze. Sidney, B.C. Gray's Pub. 1962. 143p.

ドゥホボール集団を舞台にした小説である。主人公は女性教師で、25年前にドゥホボールの村へ派遣されたとの設定になっている。叙述は、日記形式である。

278. Palmer, H. Land of the second chance.: a history of ethnic groups in Southern Alberta. Lethbridge. Alberta Lethbridge Herald. 1972. 287p.

279. Palmieri, A. I campioni dello spirito o la setta dei Duchobortzy russi. "Rivista internazionale di scienze sociali". Milano. no. 51. 1909. p. 3-27.

280. Palmieri, A. Le dottrine religiose dei Duchobortzy. "Rivista internazionale di scienze sociali". Milano. no. 52. 1910. p. 161-170.

281. Palmieri, A. The Russian Doukhobors and their religious teachings. "Harvard Theological Review". Cambridge, Mass. v. 8. 1915. pp. 62-81.

P. Brock が、「ドゥホボールの信仰に関する研究では、最良のものの一つ」と評した論文。しかし、今日の時点からすれば過大評価である。神学者の観点でドゥホボールを捉え、また依拠したロシア語文献は、ノヴィツキーとリヴァーノフのみである。

282. Panin, V.N. Die Duchoborzen. In "Das zaristische Russland". Berlin. Seehof. 1921. S. 154-164.

トビリシ刑務所へ投獄された120名のドゥホボールに対する、コサック兵に依る拷問を描いている。鞭刑で12名が落命したという。

283. Papove, W.N. The Doukhobors. In "Strangers entertained". Ed. by J. Norris. Vancouver. British Columbia Centennial '71 Committee. 1971. pp. 191-199.

284. Parry, A. No two nations so unlike. "South Atlantic Quarterly". Durham, N.C. v.49. 1950. pp.175-186.

ここで筆者が取りあげている人物は、1882年アメリカに亡命して成功者となったロシア貴族 P.A. デメンチェフである。彼のドゥホポール観、ロシア観は寧ろ懐疑的であり、アメリカ人とイギリス人に対し、リベラリズムとヒューマニズムの下に隠された祖国ロシアの暗部を暴こうと努める。クェーカーのドゥホポールへの過度の買いかぶりをも、デメンチェフは正そうとする。特に、極端に独裁的な指導者の出現を許容してしまうロシア的体質の指摘は、示唆に富んでいる。

285. Pascal, P. Mon village russe il y a quarante ans. "Cahiers du Monde Russe et Soviétique". Paris. t.7, no.3. 1966. pp.293-310.

筆者は、1926—28年にかけて、毎夏ニジニ=ノヴゴロドの小村を訪れていた。所謂旧教徒の多在していた Blohino 村で、この高名なロシア史家は追懐の情をこめて往時を回想している。ドゥホポールは登場しないものの、その生活と慣習は酷似している。

286. Pasqualotto, A. Doukhobors—those who fight by means of the spirit. B.A. thesis in arts & sciences, Gonzaga University. Spokane, Washington. 1962. 66p.

ロシア時代からのドゥホポールをフォローし、今日迄の軌跡を全体的に視野に収めているものの、明確な視点を欠いている。Spokane はカナダ国境に接し、Freedomites による「対岸の火事」に無関心ではいられない状況を反映している。

287. Paucker, H. von. Die Duchoborzen in Transkaukasien. "Deutsche Rundschau für Geographie und Statistik". Leipzig. Bd.4. 1881. Oktober S.18-21; November S.66-69.

著者は、軍隊勤務を通してドゥホポールと知り合った人物。アハルカラキのドゥホポールを紹介、その経済的窮状を伝えている。

288. Peacock, K. The music of the Doukhobors. "Alphabet". London. v.8. Dec. 1965-March 1966. pp.35-44.

オッタワにあるカナダ国立博物館の協力で行った、ドゥホボール音楽の分析。ここで著者は、その歌曲を詩篇、古聖歌、現代聖歌、民謡などに分類している。調査にあたって録音された500曲の歌は、テープとして同館フォークロア資料室に保管されている。

289. Peacock, K. Twenty ethnic songs from Western Canada. National Museum of Canada. Bulletin no.211. Anthropological series no.76. Ottawa. Queen's Printer. 1966. 91p.

国立カナダ博物館が、国内少数民族の音楽文化を採譜・記録する作業シリーズの第一弾。ドゥホボールの他に、メンノ派、ハンガリー、ウクライナ、チェコの民謡が含まれる。ドゥホボールに就いては7—47ページと大半を割き、5曲を載せている。

290. Peacock, K. Songs of the Doukhobors: an introductory outline. National Museum of Canada. Bulletin no.231. Folklore series no.7. Ottawa. Queen's Printer. 1970. 167p.

筆者の採譜作業は、E. A. Popov と P. P. Legebokov の協力で成功した。

291. Pinkerton, R. A. visit to the Duchobortsi on the Sea of Azov in 1816. In his "Russia: or miscellaneous observations on the past and present state of that country". London. Seeley. 1833. pp.166-185.

著者はイギリス聖書協会のメンバー。マローチヌィエ・ヴォードィに居住するドゥホボール数を、8ヶ村2500人とし、理神派としている。文中、1816年に発布されたアレクサンドルⅠ世のドゥホボールに関する寛容令を全文引用している。更に興味深い引用(10ページに及ぶ)は、1792年ペテルブルクのネフスキー神学校長と3名のドゥホボールとの問答筆記録である。

292. Podovnikov, E. The Doukhobor woman. Student paper in anthropology, Selkirk College. Castlegar. B.C. 1982. 27p.

293. Podovnikov, J.E. The mouse and the lion.: a cry of the tortured Doukhor spirit. Vancouver Island, B.C. Archangel. 1960. 5p.

ねずみとは Sons of Freedom であり、ライオンとは “Vancouver Sun” の女性記者で、『神の名によるテロ』の著者である。これは、絶大なマスコミの威力を駆使してドゥホポールを叩く記者に、Freedomites が書き送った抗議文である。

294. Popov, E. A. Historical exposition on Doukhor beliefs. Grand Forks, B.C. E. A. Popov. 1966. 58p. 2nd ed. 1982. 40p.

平明なドゥホポール史の入門書。広く読まれている。

295. Popov, E. A. Doukhor settlement. In “Making history: an anthology of British Columbia”. Ed. by M. A. Lindo. Victoria, B.C. M. A. Lindo. 1974. pp.191-195.

296. Popov, E. A. Tanya. Grand Forks, B.C. “Mir” Publication Society. 1975. 276p.

『ターニャ』は一見小説風だが、実在したドゥホポールの女性を主人公とした、ドゥホポールの歴史とドキュメントである。今年67歳になる著者は、正統派ドゥホポールの歴史家であり、またUSCCの有力なブレーンとして活躍している。この第二世代のドゥホポールは、次代にその伝統と教えを引き継ぐことに全力を傾注しており、若い世代に読み易くと配慮された本書も、その熱意の所産である。

297. Potter, C. Reminiscences of V.G. Chertkov and the Russian colony near Christchurch, England. “Inquirer” Saskatoon, Sask. v. 5, no. 1-2. 1958. pp.14-15.

298. Rawlings, E.H. Doukhobors. “Contemporary Review”. London. v.185. 1954. pp.298-302.

所謂ドゥホポール問題を起こしているのは「狂信的な」Sons of Freedom だけであるとし、1932年に600名、1950年に約400名、1953年には

150名と、反社会的行動と逮捕の歴史を略述、放火などに依る損害額を、執筆時点に至る迄の40年間に、3000万ドルと試算している。

299. Reid, E.P. The Doukhobors in Canada. M. A. thesis at the University of McGill. Montreal. 1932. 202p.

公共政策のあり方とカナダ諸政党間の政争が、ドゥホボール問題にどのように反映してくるかを論じている。そして、ドゥホボールそのものに関しては、その時代錯誤的な哲学からして同化の見通しは暗く、恐らくは新天地を求めて更にメキシコへ移動すると予測する。

300. Religious sect and socialism in Russia. "International Monthly Magazine". N. Y. v.1. 1850. pp.461-463.

匿名の評論である。ドイツ誌からの転載で、ドゥホボールを、当時西欧で威を振るったフリー・メーソンや光明会の亜流とする。その共同体を結社ではなく、神学的・哲学的に志向を同じくする者が集合化したものと見る。

301. Rempel, D.G. From Danzig to Russia. The first Mennonite migration. "Mennonite Life". s.l. v.24, no.1. 1969. pp.8-27.

ドゥホボールを直接論じたものではないが、最も近い宗派の初期史を堅実に描いている。

302. Ridington, J. The Doukhor pilgrimage of 1902. "Canadian Magazine". Toronto. v.20, no.3. 1903. pp.211-222.

家畜を酷使することはドゥホボールの教えに背くと解釈した一部の集団は、1700名を動員して家畜を放逐し、一大巡礼行進に出発した。これに移民局が介入して強制送還したことは言う迄もない。この巡礼行を、写真を交えて紹介したもの。

303. Ridington, J. The crusade of the Doukhobors: the story of a modern pilgrimage. "Frank Leslie's Popular Monthly". N. Y. v. 55, no. 4. 1903. pp.337-349.

筆者は、ヨークトンのドゥホボールと数週間生活を共にした体験を持

ち、当時未だ未踏の地に等しかったカナダ西部からのルポルタージュである。

304. Robertson, M. The Doukhobors' search for utopia. "Empire Review". London. v. 63. 1936. pp. 110-113.

B. C. の内陸部に居住するドゥホボールの間では、一時カナダ政府とのトラブル多発を避けて、西海岸の孤立した小島に移住するプランが話題になった。筆者はそのプランに触れている。

305. Robinson, G. T. The Doukhoborts or Spirit Wrestlers. In his "Rural Russia under the old regime: a history of the landlord-peasant world and a prologue to the peasant revolution of 1917". N. Y. Macmillan. 1961, also Berkeley & Los Angeles. 1969. pp. 46-47.

ロシアの宗教的異端派を、ミリュコフと Conybeare の資料に依り記述している。

306. Robinson, M. E. The Russian Doukhobors in West Kootenay, British Columbia. M. A. thesis in geography, Syracuse University. Syracuse. New York. 1948. 110p.

West Kootenay 地区ドゥホボールを、その居住範囲、居住タイプ、経済活動について現地調査したもの。

307. Rodwell, L. Saskatchewan homestead records. "Saskatchewan History". Saskatoon, Sask. v. 28, no. 1. 1965. pp. 10-29.

308. Ross, P. M. (Gregory). Sociological survey of the Doukhobors. B. A. thesis in sociology, Univ. of British Columbia. Vancouver. 1925. pages unknown.

ドゥホボール住民との対面調査に依る研究。

309. Roucek, J. S. (ed.). Dukhobors. In "Slavonic Encyclopedia". N. Y. Philosophical Library. 1949. pp. 244-245.

1967年、タンボフ地方に姿を現わした集団をもって、ドゥホボールの歴史への登場と見なす。

310. Rouillard, E. Les Doukhobors. "Société de Géographie de Québec". Bulletin. Québec. t. 3, no. 6. 1909. p. 35-36.

ここで著者は、フランスの空想的社会主義として知られるフーリエ主義者、イカリア主義者にドゥホボールをなぞらえている。

311. Russische Christenverfolgungen im Kaukasus 1895. Mit einer Einleitung von Stepnjak (pseud.) und einem Vor- und Nachwort von Leo Tolstoj. Dresden. C. Reissner. 1896. 48 S.

312. Rutherford, G.M. The new school teacher. In "Shoulder strap". Vancouver. British Columbia Provincial Police. v.1, no. 5. 1940. pp. 35-42.

公教育に反対するドゥホボール父兄の、学校焼打ち事件。

313. Sager, M. A short history of the Doukhobors. "Makara". Vancouver. v.1, no. 6. 1976. pp. 42-46.

314. Schlözer, A.L. von (Hg.). Moskau und St. Petersburg. In "Göttingische gelehrte Anzeigen". Göttingen. s.n. Bd. 2. 1802. S. 107-109, 1049-1063.

ロシアの異端派と分離派についての初期の記述。

315. Schmeiser, D.A. Doukhobors. In his "Civil liberties in Canada". Oxford U.P. Toronto. 1964. pp. 3-4, 87-88.

所謂 Sons of Freedom とカナダ政府とのトラブルを、カナダの人権憲章の視角から検討する。1957年のペレペルキン問題を例に、宗教的自由が保証する行為とは、そもそもどのようなものかを解こうと試みる。

316. Schmidt, J. Spirit wrestlers: the uneasy life of British Columbia. "Equinox". Camden East, Ontario. no. 25. 1986. pp. 60-

317. Scott, R.C. Doukhobors. In his "Quakers in Russia". London. M. Joseph. 1964. pp.113, 115, 137 and 228.

Quaker のドゥホポールに対する援助と影響に触れている。

318. Scott, W.D. Doukhobors. In "Canada and its provinces". Ed. by A. Short and A.G. Doughty. Toronto & Glasgow. Brook. 1914-1917. v.7. pp.538-548.

著者はカナダの経済史家。ノヴィツキーに依っている。

319. The Secret Council of Independent Doukhobors. Non-Freedomite Doukhobors and citizens reviewing the Doukhobor situation: the many year strife and scandal between the Freedomite and Orthodox Doukhobors including their leaders and responsible authorities in Kootenays, Grand Forks and Victoria, B.C. s.l. s.n. 1972. 56p.

320. Seebaran, R.B. Migration of the Sons of Freedom into the lower mainland of British Columbia: the Vancouver experience. M.S.W. thesis, Univ. of British Columbia. Vancouver, B.C. 1965. 32p.

321. Sévérac, J.B. Les origines des la secte. En "La secte russe des Homme-de-Dieu". Paris. E. Cornély. 1906. pp.96-100, 131-137.

ここでも、ドゥホポールはモロカン並びにシトゥンダ派と同日に論ぜられている。

322. Shames, P.L. Assessing cultural change in Doukhobor clients: recommendations for social work practice. M.A. thesis in social work, Univ. of British Columbia. Vancouver, B.C. 1981. 134p.

近年カナダでは、少数民族集団における社会的不適応に起因する病理

現象に対処する、社会政策側の処方せんの必要が叫ばれている。本論文も、ドゥホポール集団をモデルに、文化価値体系の異なる集団の病理にアプローチする、方法論上の提案がなされている。巻末付録の、ドゥホポールによる福祉事務所利用に関する統計データは貴重である。

323. Sherriff, P. *The Doukhobors: a select bibliography*. London. Univ. of London. 1959. 48p.

ドゥホポールに関して、初めて作成された文献目録。

324. Shortt, A. *The Doukhobors*. In "Canada and its Provinces". A. Shortt and A.G. Doughty. Toronto, Glasgow, Brook. 1913-1917. v.7. pp.538-548. v.11. pp.392-394.

ドゥホポールの宗教信条を要約している。筆者は Friends 系の資料に依っている。

325. Shkarvan, A. *Refus du service militaire*. "Revue Blanche". Paris. t.18. 1899. pp.561-569.

兵役拒否で有名となったオーストリアの医師が書いている。日記からの抜き書き。

326. Simmons, E.J. *Doukhobors*. In his "Leo Tolstoi". N.Y. Vintage Books. 1960. v.2. pp.111, 227, 231, 236, 250-251, 275, 277 and 384.

ドゥホポールへの資金援助をめぐる、トルストイと夫人の確執が特にクローズ・アップされている。

327. Sissons, C.B. *The Doukhobors in Canada*. Fresh views from these Clean-living, community-loving, antimilitary Canadians at Verigin, Sask. and Brilliant, B.C. "Farmer's Magazine". Toronto. May, 1916. pp.14-16.

雑誌 "Farmer's Magazine" の依頼でドゥホポールを取材、その果樹園栽培の成功を伝えている。

328. Sissons, C.B. What can we do with the Doukhobors? "Canadian Forum". Toronto. v. 4. 1924. pp. 298-300.

ドゥホポールを直接知る筆者が、その戦争反対や労働の尊重といった戒律を高く評価しつつも、ドゥホポールの子弟が次ぎのカナダ社会の担い手として教育を授けられるべきだと説く。

329. Smith, K.L. The Doukhobors of Canada: a community of Siberian exiles which is being brought to great financial prosperity by a Russian captain of industry. "The Craftsman". N.Y. v. 12. 1907. pp. 64-79.

330. Smith, W.G. Doukhobors. In his "A study in Canadian immigration". Toronto. Ryerson Press. 1920. pp. 217-225.

トロント大学の心理学教授であった筆者は、ドゥホポールの教理そのものに組織解体的要因があると指摘、精神衛生の文脈でドゥホポールを論ずる。

331. Smith, W.G. The Doukhobors. In his "Building the nation: a study of some problems concerning the churches' relation to the immigrants". Toronto. Canadian Council of the Missionary Education Movement. 1922. pp. 72-73, 118-121.

ドゥホポールの共産主義システムは、土地所有と課税の観点から難しい面があるとし乍らも、カナダ社会がそれから学ぶべき点として、弱者を社会的に介護する共同体方式の生活を挙げる。

332. Smolitsch, I. Raskol und das Mönchtum. In "Russisches Mönchtum". Würzburg. Augustinus. 1953. Kapitel 13. S. 357-382.

333. Smyrniw, W. Tolstoi's depiction of death in the context of recent studies of the "Experience of dying". A special paper. McMaster University. Hamilton, Ontario. 1978. 22p.

334. Snesev, V. (Harry Trevor). Doukhobors in British Columbia.

Vancouver. Univ. of British Columbia. 1931. pages unknown.

ドゥホポールの経済・社会構造, 歴史, 農業経営を論じたもの。特に CCUB (Christian Community of Universal Brotherhood) に多くの紙幅を費やしている。

335. Society of Doukhobors of Northeastern Saskatchewan. A centennial history of Doukhobors in Canada, 1899-1967. s.l. Centennial Committee of the Society. 1967. 11p.

336. The Society of Friends. Articles on the Doukhobors published in "The Friend". Philadelphia. The Friend. 1897-1927. 14p.

337. Sorokin, S.S. Doukhor affairs inside out: a letter to J.F. Mead. s.l. Union of Christian Communities and Brotherhood of Reformed Doukhobors 1957. pages unknown.

338. Sorokin, S.S. More about Doukhor affairs...inside out. A letter to B. Larsen. Krestova, B.C. FCUCCBRD. 1958. 8p.

Larsen はヴァンクーヴァーの大手新聞 Province の記者。Sorokin がウルグァイに逃避して8年間, 事実上ドゥホポール問題から手を引いていることへの質問に答え, 釈明したもの。

339. Sorokin, S.S. Further about Doukhor affairs inside out. Translated and released by the Fraternal Council of Union of Christian Communities and Brotherhood of Reformed Doukhobors. s.l. s.n. 1959. 19p.

Sons of Freedom 指導者ソローキンに関する, 数少ない資料の一つ。Trail Times に抗議して書いた1958年の論説, 1952年執筆の論説, ソローキンのプロフィール, および J.E. Podovnikov が1952年に草した『ソローキンと自由の息子たち』を収める。

340. Soukhorev, G.I. My renunciation of military service. Tarrys, B.C. s.n. 1900. 26p.

341. Soukhorev, W. A. Doukhobor history. "Inquirer". Saskatoon, Sask. v. 2. 1955. no. 3. pp. 19-22; no. 4. pp. 13-16; no. 5. pp. 18-22.

342. Spitzka, E. A. Auftreten von Epidemien des religiösen Fanatismus im zwanzigsten Jahrhundert. Die neuilichen Suggestionserrscheinungen bei den Duchoborzen in Kanada. "Archiv für Kriminologie". Leipzig. Bd. 14. 1904. S. 10-22.

オッタワの植民局担当者からの聞き書きによる、1902年時のドゥホボールの大移動を叙述。

343. Ständlin, C. F. Einige Nachrichten über die Raskolniken. C. F. Ständlin und H. G. Tzschilner. "Archiv für alte und neue Kirchengeschichte". Leipzig. F. C. W. Vogel. 1813. Bd. 1. S. 207-209.

古い資料である。1812年、エルドマン教授がバリのグレゴワール議員(別掲)に送ったレポートを紹介。ドゥホボールのシベリア流刑に触れ、自己の肉体を傷つける行為は、兵役を避ける為とする。

344. Stadling, J. In the land of Tolstoi. Experience of famine and misrule in Russia. J. Stadling and W. Reason. London. J. Clarke. 1897. pp. 10, 73, 78-83, 178-179, 227-231.

スウェーデン語で書いた原著の英訳。

345. Stadling, J. The Doukhobors. In his "Through Siberia". Westminster. A. Constable. 1901. pp. 117, 257-259.

ヤクーツクのアルダン河畔に流刑となった、過酷な条件下でのドゥホボールの生活を紹介。

346. Starr, S. F. August von Haxthausen and Russia. "Slavonic and East European Review". London. v. 46. 1968. pp. 462-478.

"Studien" で分離派を詳述したハクスタウゼン論。

347. Stephenson, A. D. Our work with the Doukhobors in Canada. A. D. Stephenson and S. Vance. In their "That they may be one". Toronto. United Church of Canada. 1929. pp. 55-65.

カナダ統一教会派の、各種少数移民への救援ならびにヴォランティア一活動の総決算報告書である。第5章の全体をドゥホボールに割いている。また、この時点で、カナダ・ドゥホボールの総数を1万5000と指摘。著者らが接触したドゥホボールはサスカチュワンの所謂独立派で、その高い教育意欲と自立心を賞賛している。

348. Sternberg, H. Duchoborzen. In "Geschichte der Juden in Polen unter den Piasten und den Jagiellonen". Leibzig. Duncker & Humblot. 1878. S. 114-126.

ドゥホボールをサバタ派の系統に属するものと捉えている。

349. Stoochnov, J. P. Doukhobors as they are. Toronto. Printed privately. Ryerson Press. 1961. 102p.

正統派ドゥホボールの一人である著者は、1960年、J. J. ヴェリーギンの実母アンナ・マルコーヴァのソ連からの奪還に尽力したと言われる。

350. Stoochnov, J. P. Toil and peaceful life: Doukhobors as they are. 2nd revised ed. Vancouver. Liberty Press. 1971. 117p.

タイトルがやや変わっているが、別掲前著の改定新版。

351. Stoochnov, W. P. Ooteschenia: the village Big Sawmill. An essay for anthropology no. 101, Selkirk College, Castlegar, B. C. 1973. 66p.

Castlegar の Ooteschenia 地区の景観写真を中心にした地域紹介。

352. Strahl, P. C. Geschichte der Irrlehren und des Sektenwesens in der griechisch russischen Kirche, aus russischen Quellen entwickelt. "Kirchenhistorisches Archiv". Halle. Bd. 2, Nr. 2. S. 47-91; Nr. 4. S. 49-76; Bd. 3, Nr. 1. S. 43-66 (1824-1825).

共にタヴリーダ地区に隣接して居住していたドゥホボールとメンノ派の生活様態を比較している。

353. Strakhovsky, L.I. (ed.) Doukhobor claims for compensation. "Canadian Slavonic Papers". Toronto. v. 1. 1956. pp. 1-15.

354. Strannik, I. Le Doukhobors. "Revue de Paris". Paris. t. 10. 1901. pp. 865-898.

カナダ移住に至る迄のドゥホポールを略述したもの。ドゥホポールの起源を、カルヴァン、Quaker、スコヴォロダーとしている。

355. Struve, N. A. Other Christian denominations. "Religion in the USSR". München. Institut zur Erforschung der UdSSR. Monographs Nr. 59. 1960. S. 131-142.

ドゥホポールそのものをテーマにはしていないものの、ソ連国内の様々な異端的宗派の昨今の動静を伝えて、貴重な資料。筆者は執筆内容からすると亡命ロシア人と思われ、ソ連の諸資料を丹念に解読する作業により、未知の状況を明かすことに成功している。

356. Sugimoto, D. M. A study of the Doukhobor cooperative movement. B. C. thesis in commerce, Univ. of British Columbia. Vancouver. 1967. 107p.

マイナー集団としてのドゥホポールが、カナダ社会一般からともすると不適応の側面でしか捉えられないのに対し、この論者は共同組合方式（オープン・システム）を駆使して経済的に成功している実態を報告し、その経営能力と勤勉を、地域経済活性化に組み込むべきとアドヴァイスする。

なお、随所に挿入された Sunshine Valley 協組の財政データは貴重である。

357. Sunshine Valley Cooperative Women's Guild (comp.). Favourite recipes. Grand Forks, B. C. s. d. 100p.

別掲ヴェリーギン編の著書と並んで、本格的なドゥホポールの料理のクッキング・ブック。調理上のアドヴァイスは勿論、随所にドゥホポールの日常生活に役立つ知識も加えてある。

358. Syrkin, N. Die Duchoboren und das Duchoborentum. "Süd-deutsche Monatshefte". Leipzig. Juli, 1911. S. 69-79.
ドゥホポールの信条の淵源を、西欧啓蒙主義の合理的精神とロシア神秘主義とを接ぎ木した鞭身派の影響と見る。
359. Syrkin, N. Doukhobors and their future in British Columbia. "American Review of Reviews" · N. Y. v. 44. 1911. pp. 356-357.
本来 "Süddeutsche Monatshefte". Nr. 508. 1911に載った文を転載したもの。
360. Szalasznyj, R. M. The Doukhobor homestead crisis 1898-1907. M. A. thesis in history, Univ. of Saskatchewan. Saskatoon, Sask. 1977. 266p.
361. Tarasov, K. J. P. V. Verigin: character sketch. "Inquirer". Saskatoon, Sask. v. 3, no. 9. 1956. p. 16.
Also. The Quaker contribution: part I, the story of the deliverance from tsarist oppression: part II, pioneer story of the Doukhobors on the prairies. "Inquirer". Saskatoon, Sask. v. 3, no. 3. 1956. pp. 30-38: no. 4. 1956. pp. 18-23.
362. Tarasov, K. J. Report on the press of British Columbia regarding Doukhobor and Sons of Freedom news. 1956-1958 period. Vancouver. K. J. Tarasov. 1958. 45p.
34点にのぼるブリティッシュ・コロンビア州 (B. C.) の新聞記事をスクラップしたもので、その一部は "Inquirer". v. 5, no. 5-8. 1958にも紹介されている。
363. Tarasov, K. J. In search of brotherhood: a history of the Doukhobors. Vancouver. s. n. 1963. 1006p.
これは、著者の別掲学位論文の appendices を成すもので、学生時代に携わった雑誌編集がこの膨大な資料の集成に役立っている。

364. Tarasov, K. J. A Study of Russian organizations in the Greater Vancouver Area. M. A. thesis in anthropology, Univ. of British Columbia. Vancouver. 1963. 272p.

タラーソフはサスカチュワン大学で学んだ後、Univ. of British Columbia (UBC, U. B. C.) で学位を取得した。サスカチュワン時代の資料収集を結実させたのが、この論文である。

365. Tarasov, K. J. The Doukhobors in perspective. "Fellowship". N. Y. v. 31, no. 3. 1965. pp. 19-22.

366. Tarasov, K. J. Zealots and Doukhobors. "Canadian Dimension". Winnipeg, Manitoba. 1965. pp. 23-24.

367. Tarasov, K. J. Russians in the Greater Vancouver Area. In "Slavs in Canada" v. 1. Proceedings of the First National Conference on Canadian Slavs, June 9-12, 1965. Edmonton, Alberta. Inter-University Committee on Canadian Slavs. 1966. pp. 138-147.

368. Tarasov, K. J. A pictorial history of the Doukhobors. Saskatoon, Sask. Prairie Books Department, Modern Press. 1969. 280 p.

著者は、夙にドゥホボールの伝統保存に意を払い、とりわけ写真の収集に努力してきた。本書はその成果の公表であり、最初のモノグラフィーでもある。

369. Tarasov, K. J. Noted Canadian peacemaker dies in Saskatoon. A tribute to Peter Makarov. "World Federalist". (Canadian ed.). v. 15, no. 8. 1971. pp. C2-C3.

独立派第一世代ドゥホボールのホープ、マカーロフ弁護士は、1970年12月に76歳で鬼籍に入った。それを追悼した一文。

370. Tarasov, K. J. Doukhobors: their migration experience. "Canadian Ethnic Studies". Calgary, Alberta. v. 4, no. 1-2. 1972. pp. 1-11.

371. Tarasov, K. J. An interpretive review of a deceptive book ("Terror in the name of God" by S. Holt). "Mir". v. 2, no. 1 & 2. 1974. pp. 5-8, 29-30, 44.

インタビューしたのは J. Popov. Holt の著書は、ドゥホボール全体に汚名を被せる結果となり、ドゥホボールがこれに強く反発したのは当然である。

372. Tarasov, K. J. Young and old: a strategy to action for the Doukhobors in the Greater Saskatoon region of Saskatchewan. Ottawa. s. n. 1976. 4 p.

373. Tarasov, K. J. Traditional Doukhobor folkways: an ethnographic and biographic record of prescribed behavior. National Museum of Man Mercury series. Canadian Centre for Folk Culture Studies, no. 20. Ottawa. National Museum of Canada. 1977. 396 p.

374. Tarasov, K. J. Celebrations: the opening of a community centre. Grand Forks, B.C. "Mir" Pub. Society. 1981. 35 p.

所謂正統派ドゥホボールの組織 U. S. C. C. は、Sons of Freedom の度重なる放火によって諸施設の焼失に遭ってきた。教会に該当すると共に、組織のあらゆる機能を満たすコミュニティー・センターも、1977年放火の難に遭って全焼した。これは、新たに再建された落成式での、タラーソフによる祝辞である。

375. Tarasov, K. J. Plakun trava: the Doukhobors. Grand Forks, B.C. "Mir" Pub. Society. 1982. 271 p.

著者の最近作。これ迄長らく蓄積した資料と知識を十分に盛り込んだ、最も新しい最も信頼し得るドゥホボール研究の成果である。貴重な歴史的写真がフルに紹介されているのも、本書の他の追随を許さない長所である。また、独立派とは言え、著者がドゥホボール集団の内部から出現した次世代の研究者である点も注目すべきであろう。これを背後で支援し、刊行に漕ぎつけた "Mir" 出版の J. Popov も、正統派ドゥホボールの、英露語に通じた若手ホープとして "Iskra" を舞台に活躍している。

376. Taylor, G. Anastasia's daughter. Toronto. Ryerson Press. 1955.
256 p.

B.C. のドゥホボールの生活を舞台にした小説。主人公のアンナは、新旧2世代の間に挟まれて、またカナダとロシアの文化価値の衝突に悩む。

377. Taylor, T.G. Doukhobor orchards in the Kootenay region. In "British Columbia: a study in topographical Control" N.Y. American Geographical Society of New York. 1942. pp. 395-398.

"Geographical Review". v. 32, Part 3. 1942. pp. 372-402 から再録した論文。

378. Teeling, W.B. Spirit wrestler: story. "North American Review". Mount Vernon, Iowa. no. 233. 1932. pp. 65-72.

ドゥホボール集団の内部抗争を、半ばフィクションで綴ったもの。

379. Teeling, W.B. Thirty thousand spirit wrestlers. In his "England's French dominion?". London. Hutchinson. 1932. pp. 142-162.

B.C. のドゥホボールを、1931年6月に訪問した折りの印象記。

380. Thompson, P. Doukhobors. A play. Toronto. Theatre Passe Muraille. 1971. 40 p.

381. Thorsteinson, E. The Doukhobors in Canada. "Mississippi Valley Historical Review". Abilene, Kansas. v. 4. 1917-1918. pp. 3-48.

ロシア時代の歴史から初めて、ドゥホボールを好意と共感で紹介している。

382. Toews, J.A. Alternative service in Canada during World War II. M.A. thesis in politics, Univ. of Manitoba. Winnipeg. 1957. 200 p.

ドゥホボールを含め、宗教的良心的兵役拒否者に深く関わってくる政

- 策として重要な、代替兵役の問題を総合的に論じたもの。第6章が、ドゥホボールに関係する部分。
383. Tolstoi, A. Alexandra Tolstoi advises Freedomites find new leaders, live in peace. "Canada Month". Montreal. v. 2, no. 12. 1962. p. 15.
 Agassiz の監獄への Freedomites によるデモに際し、ニューヨークに住むトルストイの末えいが忠告したもの。内容は、ソローキンと絶縁し、一連の反社会的行動を中止すべきとの主張。
384. Tolstoi, L. N. Persecution of Christians in Russia. "Contemporary Review". London. v. 68. 1895. pp. 645-650.
 1ヶ月前、"Times" に掲載されたものの転載。カフカースのドゥホボールに対するロシア政府迫害の詳細である。
385. Tolstoi, L. N. Les persécutions en Russie. "Revue Blanche". Paris. t. 10. 1896. pp. 53-70.
386. Tolstoi, L. N. Contre la guerre. "Revue Blanche". Paris. t. 18. 1899. p. 83.
 過去3年間に及ぶ1万5000のドゥホボールによる兵役拒否運動を紹介。
387. Tolstoi, L. Lettre aux Doukhobors émigrés au Canada. "Revue Blanche". Paris. t. 23. 1900. pp. 436-440.
388. Tolstoi, L. N. Lettres aux Doukhobors. En "Correspondence inédite". Réunie, annotée et traduite par J.-W. Bienstock. Paris. Bibliothèque-Charpentier. 1907. pp. 237-262.
389. Tolstoi, L. N. Letters to Peter Verigin, the Doukhor leader. In his "Essays and letters". Translated by A. Maude. London. Oxford U.P. 1911. pp. 167-176.

シベリア流刑中のヴェリーギンに宛てた書簡。別に1907年、仏語訳がパリから出ている。

390. Tolstoi, L. N. Nobel's bequest. In "Novels and other works of L. N. Tolstoi". N. Y. Scribner's. 1911. pp. 1-7.

平和に最も貢献したとして、カフカースのドゥホポールにノーベル賞授与を推薦する、スウェーデンのジャーナリストに宛てた書簡等を含む。

391. Tolstoi, L. Recollections and essays. Translated with an introduction by A. Maude. London. Oxford U. P. 1937.

上に挙げた edition は、例示に過ぎない。1946年、1952年にも別の edition が刊行されている。1890—1910年間にトルストイが執筆した論説『大いなる不当行為』、メモ、書簡等を取める。

392. Tolstoi, L. N. The kingdom of God and peace essays. Translated and edited by A. Maude. London. Oxford U. P. World's classics series. 1951. 591p.

ドゥホポールに最も大きな影響を及ぼした『神の王国は汝のうちにあり』など、関連著作を取める。いずれも、1893—1909年間に初版の出た著作物。ヴェリーギンがシベリアで読み、自己の手紙の随所に引用した。

393. Trevor, H. (Snesarev, V.) The Doukhobors in British Columbia. A report prepared for the Univ. of British Columbia. Vancouver. 1931. 137p.

394. Tul'tseva, L. A. The evolution of old Russian sectarianism. "Soviet Sociology". N. Y. v. 16, no. 1. 1977. pp. 20-48.

395. Turner, C. E. A peculiar people: the Doukhobors. In his "A person across the Rockies". London. Society for the Propagation of the Gospel. 1927. pp. 41-49.

ドゥホポールを、指導者無しでは存立し得ぬ社会的に未成熟な集団と

して描き出す。1924年4月25日付けヴェリーギンの、B.C.政府首脳に宛てた書簡を手がかりにする。

396. Turyk, M. D. Hillier's Doukhobors. "Canadian Welfare". Ottawa. v. 25. 1950. pp. 18-20.

著者は、ブリティッシュ・コロンビア州厚生局福祉監督官でロシア語に通じ、ドゥホポールと接触し得る数少ない行政官の一人。学校と老齢年金の問題などからドゥホポールを論じている。

397. Union of Spiritual Communities of Christ. Manifestation for peace and disarmament. Dana radar base. June 27, 1965. Grand Forks, B. C. Iskra. 1965. 24p.

398. Union of Spiritual Communities of Christ. Central Library. A list of books. Grand Forks, B. C. The Union (USCC). 1970. 5p.

399. Union of Spiritual Communities of Christ. The Doukhobors in Canada. Grand Forks, B. C. The Union (USCC). 1974. 16p.

400. Union of Spiritual Communities of Christ. The thorny pathway 1899-1981. A brief from USCC to the Honorable Allan Williams, attorney-general of British Columbia. Grand Forks, B. C. The Union (USCC). 1981. 50p.

401. United Church of Canada, Kootenay Presbytery. Advisory Committee on Doukhobor Affairs. An open letter to the citizens of Canada. Trail, March 13, 1962. Also in "Iskra". March 23, 1962. pp. 17-18.

402. United Church of Canada, Kootenay Presbytery. Advisory Committee on Doukhobor Affairs. A brief containing suggestions for the solution of the Freedomite problem. Trail, B. C. The

Committee. 1963. 12p.

403. Vanek, A.L. Canadian Doukhobor Russians in Grand Forks, B.C.: some social aspects. A.L. Vanek and R. Darnell. In "Linguistic diversity in Canadian society". Ed. R. Darnell. Edmonton, Alberta. Linguistic Research. 1971. pp.267-290.

Alberta 大学の協力により、Grand Forks で実施されたフィールド調査に基く論文。現代標準ロシア語からの偏差が主題である。

404. Varnals, D. The Doukhobors in the Kootenays: signs of stress. "B.C. Perspectives". s.l. no. 3. 1973. pp.15-20.

文化集団としてのドゥホボールが最早自立的な存在をまっとうし得ず、カナダ文化へと同化して行く過程を不可逆的な流れとし、1910年代の入植当時の歴史に立ち帰って再検討し、同化過程の必然性を論証しようとする。

405. Vasilyev, A. T. Communist sect. In his "Ochрана". London. Harrap. 1930. p.111.

マローチヌィエ・ヴォードィの「孤児院」と、ドゥホボールの財産共有制に触れたもの。

406. Vegetarian colony. "Literary Digest". N. Y. v. 67. 1920. pp. 100-103.

執筆者名は不明だが、大半を "Good health". Battle Creek. Mich. から引用している。

407. Verigin, C. Doukhobor architecture. Student paper in anthropology, Selkirk College. 1982. 35p.

408. Verigin, J. J. A Doukhobor history. Grand Forks, B. C. USCC. 1963. 8p.

409. Verigin, J. J. Doukhobors remember Tolstoi. The paper prepa-

red with the assistance of E. A. Popov and D. E. Popov, and presented at "Tolstoi Symposium" (Nov. 23-25, at University of Victoria, B. C.). Grand Forks, B. C. 1978, 23p.

410. Verigin, J. J. An idea whose time has come: a speech presented at the Disarmament Conference. Farewell to (nuclear) arms—Prospects for world disarmament: prospects for war. University of Ottawa. Ottawa. November 14, 1981. Grand Forks, B. C. U. S. C. C. 1981. 9p.

411. Verigin, J. J. Challenging the odds: a speech presented at the 2nd annual Disarmament Conference of Operation Dismantle. York University, October 23, 1982. 6pp.

412. Verigin, L. P. Practical cook book. Selected Doukhobor and Quaker recipes. L. P. Verigin and Z. H. Gulley.

ドゥホポールの固有の食生活に反映された、極めて珍しい料理の数々を、伝承に基いて記述したもので、初めて紹介された料理も含む。

413. Verigin, P. V. Truth about the Doukhobors: their leader describes and defend this curious community. "Independent". N. Y. v. 75. 1913. pp. 21-25.

拝金主義のカナダ文明になぜドゥホポールは抵抗し、アングロ社会と一体化しないのか。ドゥホポールの指導者が自らの理想と信念を高々と歌いあげている。

414. Verner, C. G. D. The Doukhobors. In his "A socio-economic survey of the West Kootenay Area." ARDA survey report no. 6. Vancouver. Faculty of Education, UBC. 1968. pp. 59-68.

415. Verner, C. G. D. A socio-economic survey of the Boundary area. C. G. D. Verner, G. Dickinson and D. V. Anderson. ARDA survey report no. 12. Vancouver. Faculty of Education, UBC. 1969. 114p.

ドゥホポール教徒を対象に行ったアンケート調査の報告書である。公教育へのドゥホポール子弟の全数参加という行政目標は、果たして可能かどうかを調査で確認しようとしたもの。次世代での完全同化は達成し得るとの、楽観的な結論を出している。

416. Viétrov, V.J. Der russische Anarchismus. In "Die freie Generation: Dokumente der Weltanschauung des Anarchismus". Von P. Ramus. Bd. 1. 1906. S. 20-27.

ドゥホポールの反軍行動を、アナキズム史に位置づけている。

417. Voykin, T. Doukhobor communes on the Saskatchewan prairies. Student paper in anthropology, Selkirk College. Castlegar, B.C. 1982. 41p.

418. Voykin, T. Doukhobor folk medicine. Student paper in anthropology, Selkirk College. Castlegar, B.C. 1982. 50p.

ドゥホポールの中に永く非公開のまま伝承されてきた、民間療法の秘伝を、聞き書きで調査したもの。

419. Voykin, W. A pictorial essay on the funeral of A.P. Markova. s.n. The author. 1979. 15p.

420. Wadstein, E. Die eschatologische Ideengruppe: Antichrist, Weltsabbat, Weltende und Weltgericht in den Hauptmomenten ihrer christlich-mittelalterlichen Gesamtentwicklung. "Zeitschrift für wissenschaftliche Theologie". Leipzig. Bd. 39. 1896. S. 79-293.

理神論的異端派の発展を、歴史的背景から解析しようとする試み。

421. Walhouse, F. Influence of minority ethnic groups on the cultural geography of Vancouver. M.A. thesis in anthropology, Univ. of British Columbia. Vancouver. 1961. pages unknown.

422. Wallace, B. Would B. C. suitable for a co-operative colony? "Brotherhood". London. December 1910. pp. 531-536.
423. Wallace, W. S. Illustrated interviews xiv: Mr. Peter Verigin, the Doukhobor leader. "Westminster". Toronto. v. 5. 1904. pp. 325-331.
424. Whitney, N. J. Experiments in community: Ephrata, the Amish, the Doukhobors, the Shakers, the Bruderhof and Monteverde. With an introduction by H. H. Brinton. Wallingford. Pa, Pendle Hill. 1966. 40p.
425. Wilbois, J. Russia and reunion. London. Mowbray. 1908. pp. 181-216.
C. R. D. Biggs による "L'avenir de l'église russe" の英訳。ドゥホボールの宗教は、理神論というより道徳論であり、原始宗教に近く、その農村共同体に類似する集団生活は、国家の役割の無理解に発するとする。
426. Wishlow, J. Lordly and Fedosia: his life through her eyes. Paper in anthropology, Selkirk College. Castlegar, B. C. 1976. 9p.
427. Woodcock, G. The anarchist prince. Peter Kropotkin. London. Boardman. 1950. N. Y. Schocken Books. 1971. 465p.
このロシアの革命運動家に就いて、多くの伝記的研究が公けにされてきたが、本書は従来から高い評価を維持している。クロポトキンとドゥホボールの関わりを掘り下げる作業は、別掲1968年の『ドゥホボール』で大きく広がった。
428. Woodcock, G. Visits to the Doukhobors in British Columbia. In his "Ravens and prophets, an account of journeys in British Columbia, Alberta and Southern Alaska". London. A. Wingate. 1952. pp. 100-119, 207-221.

前年 Hilliers のドゥホポール訪問に次ぐ、本格的な探訪記である。旅行家でもある著者は、ブリティッシュ・コロンビア州の所謂国境地域を中心に、Nelson, Castlegar, Gilpin, Grand Forks の4箇所のドゥホポールを訪問した。Gilpin は、言う迄も無く Freedomites の居住する村である。

429. Woodcock, G. Anarchism. Cleveland. N.Y. World Pub. Co. 1962. Middlesex. Pelican Books. 1963. 480 p.

ウッドコックのこの本は、わが国でも白井厚氏の良訳で知られている。直接ドゥホポールに言及した書物ではないが、ロシア・アナキズムの歴史と異端派の歴史には、驚くほどの共通性が窺われる。前半部では、またバクーニン、トルストイとクロボトキンに大きなページが割かれている。

430. Woodcock, G. Encounter with an archangel. "Tamarack Review". Toronto. no. 26. 1963. pp. 29-39.

自伝的な書き出しで始まるこのエッセーを、筆者は10数年前のドゥホポールとの初めての出会いを追懐して書き止めた。高名なこのアナキズム研究家をドゥホポールに結びつけたのは、トルストイとクロボトキンであったと記している。ヴァンクーヴァーの Hilliers に住むドゥホポールを訪問した際の感動が溢れている。

431. Woodcock, G. The Sons of Freedom. "Tamarack Review". Toronto. no. 34. 1965. pp. 95-100.

別掲 Holt の著書の書評である。同書に対する書評は多数にのぼり、いずれもここでは採録しなかった。しかしウッドコックのものは書評論文に近い上、重要な論争点を含んでいるので収めた。ここで、評者は対象接近をめぐる歴史研究者とジャーナリストの基本的差異を明示したうえで、バランスを欠いた一方的で独断的な解釈を鋭く批判している。

432. Woodcock, G. The Doukhobors. G. Woodcock and I. Avakumovic. Toronto. Oxford U.P. 1968. 382p.

本書が、Holt の著書への批判並びに回答として執筆されたことは、

容易に想像し得よう。今やドゥホボール論の古典と化したかに見えるウッドコックの著書は、公刊当時カナダの論壇の耳目を集め、賛否共々の批評が数多くなされた。それらも、ここでは採録せず省いた。

Holt がこの近々（発刊時点から）20年のドゥホボール、しかも *Sons of Freedom* しか対象として視野に入れていなかったのに対し、著者は UBC ロシア系同僚の協力を得て、『クロポトキン伝』の時と同様、長いドゥホボールの歴史をあます所無く描き出し、客観的で公正なドゥホボールの全体像を提示した。

433. Woodcock, G. *The spirit wrestlers: Doukhobors in Russia and Canada*. "History to-day". London. v. 27, no.3. March 1977. pp.152-158: no. 4. April 1977. pp.249-255.

434. Wright, J.F.C. *The Doukhobors*. "Canadian Geographical Journal". Ottawa. v. 19. 1939. pp.301-306.

筆者はドゥホボール諸派の中で、特に独立派に焦点を当て、これに積極的な評価をくだしている。Tarasov がその死を追悼した Makarov は、ライトによれば、ドゥホボールとして最初に大学で学んだ人物である。序に、1939年の時点で、ドゥホボールの人口はおよそ17000と記述している。

435. Wright, J.F.C. *Slava Bohu: the story of the Doukhobors*. N. Y. Farrar & Rinehart. 1940. 438p.

筆者がサスカチュワンと B.C. のドゥホボールの間で長期滞在した際の観察を踏まえて、ドゥホボールを紹介。

436. Yeigh, F. *The Doukhobors*. In his "Through the heart of Canada." Toronto. Frowde. 1911. Also Chicago. McClurg. 1911. pp.182-185.

437. Yon, A. *Canadiens français jugés par les français de France*. "Revue d'Histoire de l'Amérique française". Montreal. t. 19, no. 3. 1965. p.448.

1931年、ソ連からの新しいドゥホボール亡命集団の受け入れを、カナダ政府が拒否したとの記述を行っている。

438. Yorkton Doukhobors. Appel à l'humanité. "Revue Blanche". Paris. t. 25. 1901. pp. 81-96.

国勢調査に関連し、ドゥホボールがカナダ政府に行った請願。自身の宗教信条を曲げずに安住し得る場所を求めて、世界に向け公表したものの。

439. Young, C.H. Doukhobors. In "Ukrainian Canadian". Ed. by H. R. Y. Reid. Toronto. Nelson. 1931. pp. 74, 158 and 185.

ウクライナ人、メンノ派、ドゥホボール間の通婚に言及している。

440. Young, P. The pilgrims of Russian town. The community of spiritual Christian jumpers in America: the struggle of a primitive religious society to maintain itself in an urban environment. Chicago. University of Chicago Press. 1932. 296p.

都市環境の中で、原始的な宗教組織がいかにかに自己を保持することが困難か、モロカンとドゥホボールを例示して論じたもの。

441. Zenkovsky, S. A. The Russian Church schism, its background and repercussions. "Russian Review". N. Y. v. 16, no. 4. 1957. pp. 37-58.

ドゥホボール史を直接取りあげた論文ではないが、17世紀の旧教派と分離派の登場を論じている。著者の分離派解釈は、帝政期の史家カプチエーロフとメリグノーフのそれを踏襲している。

442. Zimmermann, W. Duchoborzen. In "Zu freien Ufern: Erlebnis und Ergebnis meiner Weltreise 1949-50". München. Drei Eichen. 1950. S. 63-97.

443. Zubek, J.P. A study of the local attitudes of high school students and adults toward the Doukhobors of southern British

Columbia. M. A. thesis in psychology, University of Toronto. Toronto. 1947. 83p.

マス・メディアが態度決定と意見形成に対し、社会心理学的に如何に影響するかの問題意識から、1950年代カナダで世論の注目を浴びたドゥホボールをサブ・グループとして取り出し、その反社会的行動に対する周辺アングロ系住民達の態度を計測しようとする試み。

444. Zubek, J. P. Doukhobors: a genetic study on attitudes. "Journal of Social Psychology". Worcester. v. 36. 1952. pp. 223-239.

Also abstract. "Psychological Abstracts". Washington. v. 27, no. 7161. 1953. p. 739.

前出学位請求論文を縮約したもの。

445. Zubek, J. P. Doukhobors at war. J. P. Zubek and P. A. Solberg. Toronto. Ryerson Press. 1952. 250p.

カナダ社会への適応プロセスで、伝統とアイデンティティーを保持する戦いを行うにも拘わらず、結局は同化せざるを得ない移民としてのドゥホボールの運命を指摘する。またその過程で、Sons of Freedomの主張する自由を、自由に非ずとして批判する。